

六稜會報

NO. 19

1986・10・1

昭和61年10月1日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六 稜 同 窓 会
〒532 淀川区新北野2-5-13
電話 06 (303) 5 6 6 1代表
振替 大阪9-068025
六稜同窓会名簿刊行会
振替 大阪1-309004
編集 山本次郎・満島正巳・阪田善信
印刷 フジエフオート印刷
電 話 0729 (87) 8 2 5 4



殉 難 乃 碑

昭和61年6月15日 於図書館東隣

六稜六二会建立

題字 川井義通先生

113 周年総会

ご案内

会 場 堂ビル9階 清 交 社

北区西天満 2-6-8

TEL. 361-0833

日 時 11月7日(金)

PM 5.00 受付 PM 6.00 開宴

(新人歓迎 立食パーティー・ビール飲み放題)

会 費 3,000円

(但し、S57卒以降一卒業5年以内と
S4卒以前一75歳以上の方—無料)

※ 出席の御連絡をお願いします

卓 話 「落第の効用」

弁 護 士 津 田 禎 三 氏 (51・52・53期)

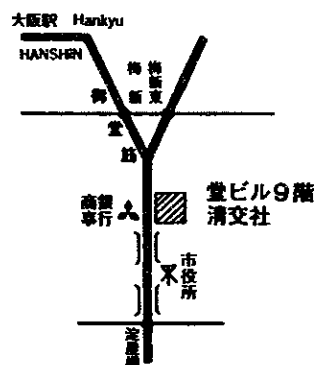
卓話者紹介 津田禎三。極めて魅力的で誰からも愛されている現代の俠客である。それはなにも、彼の体内に居候しているアメリカ製7発の弾丸のせいばかりではない。

北野中学で二度落第。三度目は放校。この記録をもつのは、百十余年の本校の歴史のなかでも、元関東軍司令官の植田謙吉將軍と彼だけらしい。

弁護士仲間の人気も高い。黙って座っているだけで、みんなが意識し、注視し、一目おいて助言を仰ぐ。禎さんは存在感のある不思議な男だ。戦時中は海軍予備学生出身の即席中尉で、乗っていた飛行艇は台湾沖の海上40メートルで爆破。再乗務した駆逐艦もバシー海峡で撃沈された。二度、太平洋を泳いだが、死ななかった。

老若男女をとわず万人に愛されている彼も、死神だけには縁がないようだ。禎さんのような先輩をもって、私は幸せに思う。

鎌倉利行 (60期 大阪弁護士会長)



昨年の総会から

卓話

「琵琶湖畔より」

滋賀県琵琶湖研究所長

吉良 龍夫 (49期)

私は、長年大阪で暮したのち昭和56年から大津へ移り現在大阪の水源地琵琶湖のお守をしている。川上の方から川下の方を見ると同じ琵琶湖でも見る目が変わるものだ。

私が育った頃の大阪の人は淀川の水を飲んでいても、琵琶湖の水を飲んでいてとは思わなかった。淀川には桂川、木津川等琵琶湖以外の水も流入しているが、雨量の少ない気候故「水量の安定装置」琵琶湖がなければ、淀川の水量は乏しくなろうし降らなければすぐに涸れるだろう。そうなれば大阪は今程には大発展をとげなかったに違いない。現在日本の総人口の割以上にあたる千三百万人が琵琶湖―淀川水系の水を使っているが、この様な例は世界でもめずらしいことだ。

琵琶湖と大阪との関係は水だけにとどまらない。琵琶湖から流れ出る河川は淀川一つで、その最も上流の瀬田川の浚渫をめぐって江戸時代から両者の利害は対立してきた。瀬田川は浅く水量も少ない。琵琶湖付近に大雨が降ると水面が上昇し湖岸は大洪水になるが、ここを浚って水はけを良くすると今度は大阪に水害が及ぶ。徳川三百年来、典型的な川上と川下の関係が続いた。

しかし、現在は「流域圏」という考えが打ち出されつつある。それは、一つの川の流域に住んでいる人達はその生活圏を作っており、一つの生活圏としていろいろのことを考えていくべきであるという見方である。琵琶湖の事はひとごとでないと大阪の人はお考えいただきたい。

琵琶湖の一番大きな問題は何といっても湖水の汚染であろう。種々の栄養分が流れ込み、プランクトンが水中で増え、夏の終りの水道水の臭気の原因となる。実は琵琶湖へ流入する河川の流域は、ほぼ滋賀県の行政区域と一致し、滋賀県の人々が湖水を汚していることになるのだが、水の汚染に関して言うならば、滋賀県が他と較べて悪いということはなく、どの都道府県も同じであろう。湖水は「高度成長時代」の十年位の間にあっという間に汚れ、昭和45年頃になり、公害問題がやかましく言われ始め、公害関係の法律が制定されると、それまでは「駆け上がる様に」汚くなっていったものが、ややましになり、汚染のテンポが落ちた。が、依然として汚染は止まらない。滋賀県はリンを含んでいる合成洗剤の使用を禁止したりして努力を続けているのだが、じりじりと少しずつ、汚なくなっていく。その一番の原因は、今や工場排水にあるのではなく、下水が充分完備していないこともあって、各家庭から出る生活排水にあるのだ。しかも滋賀県は人口流入県で京阪神からの流入者が多い。いろいろと手を打っても湖はなかなかきれいにならない。

現在の環境汚染は、かつての様にどこかに大口の汚染源があり、大きな公害事件が起こるというようなことはない。その代り、誰が汚しているのか解らないような小口汚染が集まり、汚染が進行していく。新しい公害、質の異なる汚染の時代に入った。工場排水より使い捨てにする水銀乾電池中の水銀が、工場よりも自動車の排気ガスの方が問題となる。大口汚染の時代ではなくて小口汚染の時代になっているのだ。今一番大切なことは、一人一人が自分の行為がどれだけ環境を汚し、他の人の迷惑になるかということを理解した上で、何かをしようという気になることである。これがなければ法律や条例ではもはや規制できない。新しい環境に対するこの考え方が、特に若い世代を中心にして、日本人の中に定着することが非常に大事なことである。長い年数がかかると思うが、まだ取り返しのつくうちにこの考え方が定着して欲しいというのが、環境の問題に携わる者として一番痛切に感じていることである。(要旨)

年会費は 2,000円です !!

よろしくご協力をお願いしまあす !!!

年会費制度の採用によって、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。

年会費は 2,000円です。旧に倍するご協力ご協賛をお願い申し上げます。
納入は郵便振替を利用して下さい。

番号 大阪9-068025 名称 六稜同窓会

▲お手元の六稜会報郵送封筒の表の※印は昭和60年度年会費納入済の印です。

会 務 報 告

第一回常任理事会 昭和61年7月4日清交社にて
出席：上野会長、松下名誉会長、鴻池副会長、田村、
緒方、大山、奥田、植崎、日高、山本、堤、溝脇、
丸野各常任理事、事務局より平(48回)、阪田(80回)
議題

1. 昭和60年度会計報告及び昭和61年度予算案
2. 女子常任理事の増員について
3. 各年度の年会費納入状態、不明者数等について

第一回理事会 昭和61年7月30日清交社にて
出席：上野会長、松下名誉会長、各理事計40名
議題

1. 新常任理事 清原祥恵 (69回、S32年卒)

2. 新理事 39回 (T15年卒) 阪田精次郎
(白井次郎氏他界により)

48回 (S10年卒) 平 浩行
52回 (S14年卒) 梶井孝一郎
68回 (S31年卒) 藤 洋作
石橋照子
98回 (S61年卒) 岩崎日出雄
森本直子

3. 昭和60年度会計決算報告

4. 不在理事並に名簿訂正状況の報告

理事不在の期 早く理事を選出して連絡して下さい。
75、76、77、79、80、81、84、85、87の各期
(消息不明者数も多い)

会 計 報 告

昭和60年度 六穂同窓会 一般会計報告

科 目	60年度予算	60年度決算	備 考
収 入 の 部	円	円	
1. 前年度繰越金	3,828,677	3,828,677	1,690人× 1,000円
2. 入会金収入	1,695,000	1,690,000	
3. 年会費収入	5,000,000	5,853,000	132人× 3,000円
4. 広告収入	200,000	0	
5. 臨時会費収入	500,000	396,000	
6. 寄付金収入	10,000	18,000	
7. 利息収入	50,000	16,114	
8. 雑収入	10,000	8,000	
収 入 合 計	11,293,677	11,809,791	
支 出 の 部	円	円	
(1) 運営費			卒業記念 紅白顔願 退職記念 品料を含 む
1. 人件費	800,000	450,000	
2. 旅費・交通費	200,000	169,220	
3. 通信費	100,000	94,410	
4. 印刷・事務用品費	100,000	42,474	
5. 会議費	300,000	185,864	
6. 雑会費	1,000,000	1,148,520	
7. 慶弔費	850,000	1,033,440	
8. 雑費	200,000	278,955	
(2) 会報発行費			
1. 編集費	100,000	50,000	
2. 印刷費	1,700,000	1,594,000	
3. 発送費	1,400,000	1,309,500	
4. 雑費	10,000	0	
(3) 予備費	2,333,677	0	
(4) 他会計へ支出			
1. 基金積立会計	1,500,000	1,500,000	
2. 名簿特別会計	700,000	700,000	
支 出 合 計	11,293,677	8,556,383	
次年度繰越金	0	3,253,408	

昭和60年度 六穂同窓会名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算	備 考
収 入 の 部	円	円	
1. 前年度繰越金	1,817,910	1,817,910	108冊× 3,000円
2. 名簿売上収入	120,000	註 324,000	
3. 広告収入	0	0	
4. 利息収入	50,000	67,024	
5. 雑収入	0	1,000	
6. 一般会計より受入	700,000	700,000	
収 入 合 計	2,687,910	2,909,934	
支 出 の 部	円	円	
1. 編集費	0	0	註*
2. 印刷費	850,000	842,661	
3. 発送費	12,000	25,550	
4. 雑費	10,000	300	
支 出 合 計	872,000	868,511	
次年度繰越金	1,815,910	2,041,423	

59年度残425冊、60年度売上108冊、60年度寄贈5冊

60年度残312冊、1冊3,000円

註* 名簿台紙・DM宛名ラベルの印刷

昭和60年度 六穂同窓会基金会計報告

科 目	決 算	摘 要
収 入 の 部	円	
1. 前年度繰越金	37,706,764	大和銀行 金銭信託
2. 利 息	2,411,896	
3. 新規積立金	1,500,000	大和銀行 金銭信託
収 入 合 計	41,618,660	
支 出 合 計	0	
次年度繰越金	41,618,660	大和銀行 金銭信託

以上の通り昭和60年度六穂同窓会会計報告をいたします。

昭和61年6月20日

六穂同窓会長 上 野 淳 一

本会計の正確であることを認めます。

昭和61年6月20日

六穂同窓会監事 滝 井 尚 三
同 橋 田 圭 兒

東京六稜会第29回総会報告

東京六稜会常任幹事 大山利雄

61年度の東京六稜会総会は6月5日(木)午後6時より恒例の日本工業倶楽部で行われた。参加者は187名と昨年より、やや減少したものの盛況であった。

玉置会長より、北野中学へ芦屋から通った当時の想い出から阪神タイガースの熱烈ファンである旨のユーモラスな御挨拶があり、続いて母校よりみえた阪田先生から北野高校の近況報告があった。57期の松本善明議員が、所用のため6時15分に退席されるということで、簡単に挨拶をお願いしたあと、御健闘をお祈りした。

また、たまたま御帰国中なので御出席を頂いた53期の在中華人民共和国特命全權大使中江要介氏に、短い時間で申し訳なかったが中国に就いての大使の所感を述べて頂いた。日本では、水に流してとか、小異を捨て、大同につくと言うが、その様なことの理解がなされない中国との関係の難しさを一例として言っておられた。

幹事報告のあと、57期の関西大学教授 大庭 脩 氏の「暴れん坊將軍 吉宗の反面」という講演を拝聴する。同氏を御紹介頂いたのは57期の千田稔氏。昭和19年北野中学校を御卒業後、昭和28年龍谷大学文学部大学院を経られて文学博士。「江戸時代における中国文化受容の研究」に対して学士院賞が贈られることが、この3月に決った。長崎貿易に関係し作成された書類帳簿と、それに関連あるものを広く収集、漢籍輸入の年代、種類、量、時代による変遷などを考え、書誌学的考察の新研究分野を開拓された方である。

5日、講演のため、わざわざ上京され、一旦、大阪に帰られた後、9日の日に、天皇陛下より授賞の栄を担われたのである。

御講演の中で、江戸時代一番本を買ったのは吉宗將軍であったとか、象を輸入して、長崎から京都まで曳きつれて来、御所で天皇に見てもらおうと、位をもらって御所に入ったとか、新知識と面白いお話に魅了された30分であった。

懇親会は福井澄男幹事(55期)の司会で、7時より始まる。大正15年御卒業の三宅利雄氏に乾杯の音頭をお願いする。大阪より上野淳一六稜同窓会長がお見え下さり、挨拶を願う。約1時間懇談のなされたあと、新会員の紹介を、東京大学在学中の中村成己君にお願いする。今年は20人の新会員が、紹介された。新会員を代表して土井純二君から答礼があった。最後に49期中村典美氏の指揮によって校歌、応援歌を合唱して8時20分閉会となった。

今年は、常任幹事である小生が多忙を極めていた、十分な準備が出来ず、受付等のボランティア活動も、ぶっつけ本番でやらざるを得なかった。にも拘らず、年度幹事の有志の方の心からなる御協力と御事仕によって、無事に終ったことを心から御礼申し上げる次第です。

明年の総会は、東京六稜会発足後30回目の節目の会合となるので、アクセントをつけた会合にしたいと考えておりますが、6月5日の金曜日に、日本工業倶楽部を予約致しましたので、多くの方のご出席をお待ち致します。

東京六稜会事務局

〒154 東京都世田谷区若林3-6-18

大山利雄 気付

電話 03-421-0693

殉難乃碑によせて

あの日、昭和20年6月15日の朝、空襲が始まった時は曇っていた。僕は学校の通用門から十三の方へ数百メートルの所にある焼け残した民家のラジオで情報を聴くという命令を受けた。その家の傍のチャチな、地下水の溜まった防空壕から見上げた灰色の空の、雲の薄くなった処をケシ粒のようなB29の編隊が西へ向かっていた。その途端、壕の周囲には焼夷弾が何本も突きささり、煙を上げていた。僕は反射的に壕をとび出し校舎に駆け戻り、そして、助かった。

それに比べて、41年後の、この日の明るさは何なんだろう。しかも意外な静けさ。学校では文化祭が行われているというのに。生徒たちがご遺族や我々に気を遣ってくれているのだろうか。校庭の向うにあった小学校もない。当直の我々中学2年生を尻目に査閲将校の接待で酔っ払った校長の歌声が聞こえ

石川 周三 (62期 電通取締役)

て来た、あの官舎もない。官舎の横の楠の木だけが昔より一まわり大きくなって立っていた。

終戦の翌々年、東京へ戻った僕にとって、あの日の記憶は、幾つかの思い違いもそのままに、この40年間全く薄れることはなかった。逆に、戦後の大阪の変化の中に生きて来た同級生にとっては、戦争中の思い出は風化してしまったのではないかと考えていた。有難いことに、これは完全な誤解であった。多くの友らの尽力で、13歳の少年、中島君と池田君の殉難を悼み、戦争の悲惨さを北野の生徒に伝え、后世に残す記念碑が建てられた。この40年間、何も出来なかった僕にとっては感謝に耐えない。皆さん、有難う。

6月の太陽の下で、僕は追憶と感謝の気持ちにひたっていた。

北野戦後史

題字 泉 徳二元校長



—— 連載第9回 ——

母校は銘酒

木戸 湊

良いお酒ほど、後になってじんわりと酔いが回ってくるという。だが、飲んでる最中は夢中で、よく味が分らないこともある。時にむせたりもする。大学を出て、社会人になり、結婚をして、子供をつくる。さて、不惑も半ばを過ぎて、すっかりセピア色に変ってしまった青春を振り返ってみると、私にとって、北野高校こそ、まさしく「銘酒」だった想いが深い。あの友人、あの出来事……さまざまな思い出が陶然と湧いてきて、飽きることがない。それなのに、卒業以来ただの一度も同窓会に出席していないのは、ひたすら締め切り時間に追われる記者稼業のせいなのだが、「まだまだ懐旧にふける齢ではない」と自戒しているためでもある。ところが、先日、ある酒席で「六校会報」の編集責任者で野球部の先輩でもある山本次郎弁護士から「北野戦後史に一文を寄せろ」とご下命があった。「とんでもない。適任者は他に山ほどいますよ」と固辞したのに、次々と勧められる旨い酒と山本さんの弁舌にとうとうKOされてしまった——。

越境入学組

私はいわゆる越境入学組だった。一つ年上の近所の秀才が北野へ入り「ええ高校やぞ」と会うたびに自慢するので、「オレもひとつ受けてみるか」と挑戦したところ、パスした。ところが、自宅が泉州の岸和田。南海、地下鉄、阪急と乗り継いで、十三にたどり着くまで、通学にたっぷり1時間半はかかった。野球練習を終えて、帰宅すると夜の10時過ぎ。宿題を片づけて、朝起きるのが6時過ぎ。朝食もそこそこ南海岸和田駅まで約1(キロ)を走って、危うく特急電車にすべり込む毎日。見るに見かねて同駅手前の踏切番のオジさんが「遅刻するぞ。早う渡りなはれ」と降ろしていた遮断機を上げてくれることも再々だった。

だが、同じ越境組の奥野棟生君(故人)などは、奈良県御所市から2時間ばかりで通学していた。睡眠不足で、授業中によくあくびが出た2人はすっかり意気投合。後日、早稲田大学でも同じ学生寮に入った。奥野君はサミュエルソンやケインズを原書でゴツゴツと読んでいた勉強家で、私と同じジャーナリスト志望。「朝日新聞へ入って、経済記者になりたい」と胸ふくらませていたのに、

大学1年の夏休みに山で遭難して不帰の人となった。私も捜索隊に加わり、4日後に遺体を発見。山中で茶びに付して、麓の村で待機しておられた奥野君の母上に遺骨をお渡ししたところ、突然、深い谷川に身を投げようとされ、あわてて抱き止めた記憶が鮮烈に残っている。

その後「読んでやってほしい」と母上から送られてきた奥野君の高校時代の日記帳に「あと二つ勝てば、木戸は甲子園ノ」(昭和31年7月31日付)と大書されていたのは、胸が詰まり、言葉を失った。

正確には分らないが、あの頃の北野高校生の3人に1人は、われわれのような越境入学組ではなかったか、と思う。

あゝ、甲子園

「あと二つ」でとうとう幻に終わってしまった甲子園だったが、ひたむきに白球を追った思い出と喜び悲しみを分かち合ったチームメイトは無性に懐しい。

私たちは、2、3年生の夏にいずれも大阪府予選のベスト4に進出、センバツ優勝当時(昭和24年)のチームに次ぐ、「第2期黄金時代」といわれたものだ。大黒柱は丹羽弘投手。高校生離れした速球とシュートで完封試合が多かった。しかし、丹羽君だけではなく、1年上は小林聡介捕手(主将)や水沼謙二遊撃手、善積武典二塁手らファイトマン揃いだったし、同期生では広瀬一、三吉正国、柳部正道君ら好選手がいた。

2年生の夏、私は5割近くを打った。奥野君が日記を書いた翌日の準決勝の清水谷戦でも3安打したが、5回表のチャンスに焦って三振。延長10回の末、0-1でサヨナラ敗れた。清水谷の小宮山投手は中学野球のころからのライバルで、試合後に言葉を交わしたところ「5回表のピンチには投げるところがなくなって、腕がちぎんだ」という。そのワンバウンドの悪球を空振りしたのだから、こっちは小宮山君以上にあがっていたわけだ。あれ以来、私は「こちらがしんどい時は、相手はそれ以上にしんどいはずだ」と自分に言い聞かせ、勇気を奮い起こすことにしている。それにしても暑い日の長い試合だった記憶がある。

「運命」というものをつくづくと感じたのもこの試合。8回表、ヒットで出塁した私はすぐさま二盗。さらに三盗を試みたところ、捕手の送球が高くそれた。「しめたッ、これで勝ったぞ」踊り上ってホームヘダッシュしかけたところ、それたボールが、なんと、三塁後方でボンヤリ立っていた塁審の胸に当たってボトリ。甲子園への道が断たれた痛恨の瞬間でもあった。運不運とはいえ、この齡になっても、あの塁審の姿を時たま夢に見ることがある。

丹羽君は若い時から人間的にも素晴らしい男だった。焼けつく夏の合宿練習では、たった一度の休けい時に、ヤカンの氷水をコップに一杯だけ飲むことが許されていた。しかし、とても一杯では収まらない。みんなが少しずつ盗み飲みを重ねるうちにヤカンは空っぽになり、まだ打球練習をしていた丹羽君の分がなくなってしまった。「さあ、怒るぞ。どうする」みんなが注視する中で、生ツバを飲みこみながら、空ヤカンを傾けた瞬間、丹羽君は

実に悲しそうな顔をしたが、黙って、熱い番茶入りのヤカンに手を伸ばした。私は2年前、MBSラジオでタレントの板東英二（夏の甲子園の準優勝投手）と対談、たまたま高校時代の猛練習に話が及んだところ、板東君は「水？ そんなもん全然飲ましてくれなかった。そやさい、部室の雑巾を濡らして草むらに隠しといて、ボール探すふりをして、雑巾をすすりましたわ」と教えてくれた。「上には上があるもんや」と感心したものの、あの時の丹羽君の悲しそうな顔は、これからも忘れられないだろうと思う。

現在、大阪大学医学部の心臓外科でメスを振るっている広瀬君は、とびきり数学が出来た。中間、期末テストになると、みんなを集めて数学のヤマを教えてくれたものだ。公式試合の日程の都合で、後日、野球部員だけが別室で数学の実力テストを受けたことがあった。「出来たら持ってこい」と先生も大らかなもの。いまこそ息の合ったチームワークを発揮すべきチャンス。数学では常に低空飛行を続けていた私まで好成績を取った。しかし、悪事はたちまち顕れる。数日後、ガンジー（数学担当の故栗井光雄先生）が野球部室をのぞき「こらっ、お前たちは」と一喝。しばらく間を置いてからニッと笑い「困った子たちやけど、許したる」。風に吹かれるように去っていかれた。その日の練習にひとしお熱が入ったのはいうまでもない。

野球部長の西田曉夫先生は肝っ玉の太い人だった。試合に勝っても敗けても「次も頑張れよ」とニコニコしておられ、叱られた記憶は余りない。ただし、時間にルーズだったり、服装が乱れたりしていると雷が落ちたし、球場に向う電車の中などで、不意に物理の問題などを持ち出されるのには閉口した。対照的に橋毅監督は厳しかった。銀行マンに成りたてで、グラウンドに来られるのは週一回位だったが、その日は全員、とても緊張した。

橋さんと再会したのは、20年後、インドネシアの首都ジャカルタでだった。当時、私は毎日新聞ジャカルタ支局長。三和銀行ジャカルタ支店が現地要人を招いて大パーティを催したことがあったが、その前日、私を訪ねてきた支店長が「本店からやってくる『エライさん』がおっかない人で……」と何やら元気がない。当日、パーティに出かけてみると、その「エライさん」があの橋監督。「キミが何でこんなところにいるんじゃ」と例の調子でかまされたが、私たち二人の間柄を知って支店長は大喜び。橋さんも私も嬉しくなって大いに飲んだ。

そんな野球部生活だったが、つらいこともあった。

昭和31年5月、北野高校生2人を含む3人が熱田神宮に草薙の剣を盗みに入った事件である。主犯格のAさんは天才肌の変人だったが、見張り役で同行したBさんが野球部員だった。一部週刊紙には「自殺で有名な北野高校生、今度は盗み」などと書き立てられて恥しい思いしたが、「これで夏の予選も出場停止か」とがっかりした。しかし、西田部長らの奔走のお蔭で、高野連も「夏の予選まで対外試合禁止」という穏当な処分を打ち出し、私たちは手を取り合って歓声を上げた。

32年夏の予選では、藤井寺球場に向う途中の応援団の貸切りバスが大和川堤防下に転落、41人が重軽傷を負う事故があった（同年7月30日）。事故はベンチに知らされず、「今日は応援団が少ないな」と思いながら、プレーに夢中。勝利の直後に惨事を聞かされた時のショックは大きかった。チームを代表して丹羽君とマネージャーが病院へ見舞いに駆けつけたが、重傷の女生徒が医師の制止も聞かず、起き上がって丹羽君の手を握ったとかで校内の話題になった。その後、負傷者全員が後遺症もない由で、不幸中の幸いだったと思っている。

「キミたちに、つきっきりの監督がいたら、きっと甲子園へ行けてたやろうにな」卒業間際に慰めてくれた森寿太先輩の言葉が耳に残っている。橋さんは監督兼銀行マンの多忙な身で、精一杯鍛えてくれたが、なにしろ一週間の内六日間は、われわれの自主練習だった。気構えや技術面で足りないところが多かったに違いない。練習、公式を問わず、私たちの全試合を観戦、声援してくれた森さんには、その点が痛い程、分っておられたのだろうと思う。

「勉強もやらなければ」。白球を追う私たちにも焦りはあった。それを見すかしたように国米宏先輩は教えてくれた。「今は野球に打ち込め。勉強は一生かけてもやれる。中途半端だと、きっと後悔するぞ」先日、当時のチームメイトが集まって酒を飲んだが、誰一人、後悔していなかった。それどころか、「もう一度生まれ変わっても、甲子園にチャレンジする」などと勇ましく、はるか青春の挫折にこだわりつつ、どの顔も見果てぬ夢に向ってひたむきだった、かつての自分に満足しきっているようだった――。

忘れ得ぬ恩師

「いったい、北野へ何をしにいったんだ？」と叱られそうなので、ちょっと勉強の話もしてみたい。

数多くおられた中で、ひときわ印象深いのが田上泰昭先生（国語）と島内義一郎先生（英語）だ。

田上先生は赴任後、日も浅い精悍な青年教師。放課後はぶったおれるほど泳いだり、ランニングをされていたが、授業中は真剣勝負の趣があった。「こんな字も読めないのか、アーン」「どういう意味だ？ 言ってみろ……言ってみろってのが聞こえないのか」。ドスのきいたしわがれ声でやられて、涙ぐんだ男生徒も多いはずだ。

この田上先生が夏休みに出した宿題は猛烈だった。「次の四書を読んで、しっかり感想文を書いてこい」というわけで、その四書が忘れもしない「善の研究」（西田幾太郎）「司馬遷・史記の世界」（武田泰淳）「桂離宮」（和辻哲郎）「禅師」（大佛次郎）だった。

15、6歳の少年には手に負えない代物ばかりだったが、ねじり鉢巻きで三度、四度と読むうちに、何とか大意だけはつかめた気になってきた。そればかりか、後日、宮内庁に申請して桂離宮や修学院離宮を見学したり、和辻哲郎全集を購入、さらには史記から十八史略、三国志、水滸伝へと巻を広げたりで、目の前が急に広がった感じがした。

32年10月、世界最初の人工衛星スプートニク1号が宇宙を飛んだ時、田上先生は漢文の授業をそっちのけで、スプートニクについてしゃべりまくった揚げ句、「いくら科学技術が進歩しても、月や火星に人間が住むようになって、最後に帰ってくるころは、この地球しかないのだ」とドンと机をたたかれた。この開き直りの「実存主義」にはしげれたものだが、先日、28年ぶりに田上先生と再会、お尋ねしたところ「あれはねえ、オレが北野くんだりでウロウロしているのに、同じ年格好のソ連人飛行士が未知の宇宙へ一番乗りしたのが、しゃくに障ったの」と照れておられた。山本弁護士らと、これでもかこれでもかと衆議院の定数は正を求めて提訴される正義感とともに、「われらのタガミはん、はやっぱり永遠のロマンチスト」。

夏になると、縮みのシャツに手拭いの鉢巻き姿で飄々と授業される島内先生も忘れ得ぬ人だ。誤訳でもすると、頭から湯気を立ててどなったものだが、府教委の指導主事らが視察に来て、ドアも締めずに教室を出ていった時には、「ブ、無礼者！」と顔を真っ赤にして叱りつけ、ボクたちはわけもなく感動したことがあった。

島内先生の読本は、ギッシングの「ヘンリ・ライクロフトの私記」。多難だった生涯を淡々と語るギッシングの秋の光のように清く円熟した、この自叙伝は、今も読み返すたびに心が洗われる思いがする。そういえば、島内先生は「私記」の主人公が念願の古書を手に入れたものの、バス賃がなくなって、歩いて帰ったくだりや、一片のパンと水だけで十数時間、大英博物館で読書したくだりでは、うっすらと涙さえ浮べておられた。まこと、心温まる「温泉」なのだ。

二人の恩師から教えられたことは、何かを好きになるには、きっかけが、それでもできるだけ強いものが必要だということ。そして、子供たちに全人格をかけて、それを与えてやるのが、教師や親たちの務めだと思うのだが、如何だろうか……。

ちなみに、「司馬遷・史記の世界」と「ヘンリ・ライクロフトの私記」はとうとう私の座右の書になってしまった。

林校長の思い出

次に、当時の林武雄校長にまつわる思い出を記してみたい。

いつも背筋をピンと伸ばし、大腿でスタスタと歩かれる姿を覚えているが、在学中に三度しか職員室に足を踏み入れなかった私などは、雲の上の人だった。まして、同じクラスに校長の二男の葉山信三君がいて「煙たい親父や」と聞かされていたせいか、いつも敬遠気味だった。(後に、葉山君の「煙ったさ」は、いくら答案用紙を破り捨てても、親父が点数を先刻ご承知だったため、と判明したのだが……)。

だが、2年生の秋、日本に初めてやって来たイベッジョーのシャンソンが聴きたくて、午後の授業をエスケープ、こっそり通用門を出ようとしたところで、林校長とハチ合わせ、「どこへ行く」ととがめられた。「ええい、ままよ」と有り体に答えたら、「ウン、ウン」と笑って放

免してくれた。ひょっとして、大阪高校教授時代のクセが脱け切っておられなかったのかもしれないが、「一人前、扱いをしてもらったこちらは感激、コマ劇場へすっ飛んでいった記憶がある」。

年に数回、講堂での校長説話は聴き取りにくいものだった。いつも最後列付近にいて、静聴していなかったせいでもあろうが、林校長はシャイなのか、早口な上、声も余り大きくなかった。

ある時、「ブタ」か「ブッダ」かが虎に身を投げて誰かを救った——という話をされたのだが、例によって良く聴こえない。教室に戻ってから「ブタだ」「いやブッダや」と論争になり、「右総代、で葉山君が恐る恐るお伺いを立てたところ、林校長は「ブッダだ」と憤然、葉山君はもう少しでぶん撲られるところだった。気の利いたのが、図書室へ走って調べた結果、仏陀の前身の薩埵王子が、七匹の子虎を産んで飢えて横たわる母虎を憐れみ、自ら断崖から身を投じて虎の餌食となった——という「捨身餌虎」伝説で、「金光明経」に記され、法隆寺玉虫厨子の須弥座絵にもあることがわかった。林校長は、今風に言えば、身勝手なヤングを戒めるため、「身を捨てて仁を為せ」と感動的な話をされたのに、まさに馬の耳に念仏。校長が激怒されたのももっともだし、葉山君にも悪いことをしたものだ。今、これを書いていても、顔が赤らんでくる。

約15年前、神戸市内のホテルで行なわれた葉山君の結婚披露宴で、長崎県平戸市から出てこられた林校長にお会いした。この披露宴では、自薦他薦の「有力者」が次々とスピーチでオダを上げるのが、カンに障ったので、林校長の優れたキャリアを紹介、北野高校での功績を賛え、ついでに小川達二君(同級生)と「淀川の清き流れよ 六甲の雲入る峰よ」と北野高校校歌まで唱って溜飲を下げてやった。「きっと校長に叱られるぞ」と小川君と覚悟していたが、宴後「ありがとう。身体に気をつけて。仕事も家庭も大切にな」と言われて恐縮した。生意気な感想だが、卓抜していた「知」「情」にくるまれて、村長さんのようなお人柄になられていたような気がする。

思い出すままに書き連ねたが、北野高校の良さは、何といっても、先生と生徒、あるいは生徒同士の相互信頼と切磋琢磨にあるように思える。「集まり散じて、人はかわれど」——母校の発展と栄光を祈りつつ、ペンを擱きたい。(了)

木戸 漢(きど あつむ)氏略歴

昭和14年大阪府泉佐野市生まれ。六畿野球部戦後第2期黄金時代の中堅手4番打者。

昭和33年北野高校卒(70期)。同38年早稲田大学文学部英文科卒。同年4月毎日新聞大阪本社入社。和歌山支局社会部を経て東京本社外信部へ。同50年～53年ジャカルタ支局長。大阪社会部へ戻り、大阪府警本部担当キャップ。京都支局次長を経て同57～60年社会部デスク(事件担当)。同60年8月から阪神支局長。

旧北野中学の校門を出て60年 六稜同窓会に献身された

故 白井次郎氏 (39回T15卒)を偲ぶ

岡田 喜雄 (S2)



◇白井氏は昭和元年に母校を出て以来、60年、同窓会理事に選ばれ全く同窓会の生き字引きとして老壮青年子会員から人気を集め急逝するまで、そのリーダーを努めてくれたのでした。

◇北野中学校を出て間もなく大きな印象として遺っているのは 故 鈴木清一郎教頭先生 (枯やん-枯す、き)の送別会でありました。

勤続30有余年、他校への校長栄転もはなつて「天下の北野に骨を埋める」として頑張った枯やん先生の送別会が中之島中央公会堂3階で開かれ、先生を慕って集った卒業生2000名に囲まれた壇上で森繁久弥と抱き合つて「枯す、き」を唱う枯やんの涙が頬に溢れた。そしてみんな一緒に泣いて校歌を唱って送った印象は今なお大きな語り草であります。この演出は白井さんと私でした。◇白井さんの音楽好きは天才的でありチェロの弾き手でもあり、また指揮者としても有名であり、多くの後輩を指導して「六稜音楽団」を組織育成して今も立派に受け

継がれ活躍しています。加えて終戦後の困難の中に「関西交響楽団」(朝比奈隆氏)の組織復興から今日の安定興隆に献身したのも彼であります。

その関係の同好楽団のピロキオホールの演奏に出てチェロを弾きながら舞台上で倒れた彼であり、この時の衝撃があとあとの身体にこたえたようで入院療養の日が続いて見事立ち直って会社(本社)に顔を出すようになり、かたわら東京商大(如水会)大阪支部幹事長として連日、梅田のクラブ事務所に顔を出して世話を焼いた彼でした。◇さていよいよ北区芝田町の済生会病院旧北野中学校跡に「六稜健児思い出の記念碑」を建てることになり、幾たびか私と一緒に、済生会病院長や工事関係の交渉に足を運んでくれました。

記念碑募金も予想以上に集り待望の竣工除幕式が昭和60年4月20日北野創立記念日に行われ彼が居列ぶ同窓卒業生を前に六稜校歌合唱の指揮を取りました。これが彼の一生の最後の躍動の記念として満足の喜びであったと思います。

◇故白井次郎さんは北野同窓会の名幹事でありました。愛日小学校から北野中学、東京商大を出た大阪船場、道修町の暖簾の白井松のぼんぼんが歳の暮、昭和60年12月28日午前6時、他界した。酒も嗜まず煙草も吸わなかった彼の病名は肝炎でした。

◇明けて昭和61年2月1日、正午から阪急グランドビルKBCで故白井次郎さんを偲ぶ会が開かれ旧師土屋・水島先生をはじめ各年度代表幹事36名が集って彼を讃える思い出は尽きなかった。

私事ながら良き伴侶、相談相手が亡くなって淋しく残念であります。(合掌)

「北野 Romancers」誕生!!

S29年卒(66期)3年4組(葛西学級)

卒業30周年同期会の時、3年4組のクラス会をしようという話が持上がり、1年後の60年11月2日、梅田「泉の広場」にある「レストラン ブーン」で第1回会を開きました。開会の午後5時丁度に担任だった葛西先生がお見えになり、会場から一斉に拍手が湧き起こりました。

葛西先生はS23年から57年まで英語を担当されておられましたが、ご退職後は趣味の油絵や読書等に親しまれ、悠々自適の生活に入られたと承りました。在学中は「鬼のカッサイ」と恐れ、厳しい先生だと思っていましたが、にこやかな笑顔で、お若い頃のユーモアに富んだ思ひ出話等お聞かせ頂き、楽しい雰囲気でした。

私達は、クラス在席50名のうち20名が集まりました。今年50才、人生の後半に入ったわけですが、自己紹介の中で多くの人達が、仕事や生活の上で各界でご活躍の立派な先輩方にお会いし色々お世話になったお話が出て、今更に、北野の大きさを感じました。そして、これからも、北野の卒業生の誇りを持っていこうと話合いました。



皆さんのご希望で年に1度は会合を持つことになり、先生が、ロマンスを語る人達の会ということで、「北野 Romancers」とご命名下さいました。さすが英語の葛西先生、73才とは思えない若々しいご発想と、感心しました。

今回は出席者の半数以上が女の方でした。次回は男の方も挙ってご出席下さいますよう、お願いします。

(幹事 山口・平井・加藤(奈)・寺田・大内)

想 出

題字 阿部俊一先生

四年間の北野生活

菅 正 徳 (69期 三菱商事大阪支社部長代理)

昭和29年に六稜の星のしるしをいただいて、32年に一応卒業したが、私には嬉しいことに引き続きもう1年の北野生活があった。

当時の北野は温情あふるる学校で、浪人のための予備校もやってくれた。名付けて補習科と言った。西田駿夫先生の作詞だったと記憶するが……

「俺もお前も淀川の

花の咲かない 補習科ぐらしへ

という歌をよく唱った。枯れすすき節で唱うと、北野——森繁のイメージがだぶって、何とも物悲しくも、嬉しいムードに浸れるのであった。

正式在学の3年間は、まだ校内には24年甲子園優勝の残り香がただよっており、入学した翌年には、市岡との定期戦が戦後はじめて再開され、岡田バカリキ氏をはじめとする大先輩が来校、講堂に在校生全員を集めて応援練習の指揮をとられ、全校は熱気につつまれた。1年下に府下屈指の好投手、丹羽弘君を擁し、戦後の野球部第二期黄金時代の様相であったし、ラグビー部も強かった。こちらは天高との定期戦で、花園や西宮に全校生徒が結集した。サッカー、ハンドボール、水泳、体操等々あらゆる運動部に、これという逸材がいて、対外試合の結果が楽しみな時代であった。戦後はじめて剣道部を再興したのも同期の長束達也君であった。文化祭・体育祭の催しも盛大これ極めた。

要するに勉学の北野というよりも、クラブ活動の北野といって差つかえない時代であったように思う。いきおい、大学合格率は低下した。バリバリの秀才もポロポロと落ちた。

亡きガンジー(栗井光雄先生)は「近來まれにみる不作のとし」と仰せられたが、口の割にはそれほど残念な顔をしておられなかったと記憶する。先生は学業優秀を多とせられたが、一方で、何かを懸命にやる者にも相応の評価を下された。又先生自身も、クラブ活動の北野を大いに奨励され、楽しまれていた。

こういう雰囲気の中で、こういう仲間が集って、六稜応援部を結成したのが31年である。それまでの自然発生的リーグの応援から脱して、組織的応援を目指するというものであったが、内容は、極めて梁山伯的で、運動各部・文化各部のより集り、専任は私と淡江克彦君ぐらいのものだった。それでも当時の自治会は正式の部として認知してくれ、会計の内間安男君は10万円(だったか)の特別予算をつけてくれた。その結果、団旗・たれ幕・横断幕などがにぎにぎしく出来上った。坂口君が関西学院大の応援用の指導を受けに行ったりして、少しでも近

代的なカラーを出そうとした。夢は甲子園での六稜の文字だった。しかし実際は樋口日出雄君の「どじょうすくい」が目玉だったりして、いまひとつ近代的とは言えなかったように思う。

31年の夏の大会はもっとも優勝のチャンスが高かった。野球部は春の近畿大会を辞退して、練習を重ね、満を持していたし、学校をあげて、まなじりを決するという構えでもあった。

それというのも、春の辞退は例の熱田神宮事件に、正捕手で名手と言われたK君がからんでいたためであって、急提、主将の小林清君が外野から、慣れぬ捕手にまわり、丹羽君の球を受けることになった。一寸した悲愴感も漂っていたわけである。

連日の応援は、全校あげてのものであり、日生、藤井寺は六稜生でいつも満員であった。破竹の勢いとみられたものの、準決勝で清水谷に1対0で敗れ、甲子園の夢は消えた。

戦い終った応援部は日生球場から御堂筋を通り、淀川を渡り、北野まで行進した。六稜の応援旗を先頭に、行進する我々を見て、道行く人はいぶかった。しかし、あな北野やなという親近感がかい間みえ、暖かかった。

冬はラグビーの天高戦が華である。学期末試験終了後も講堂でガンガン、ドンドンと練習をやる。林武雄校長が校内巡視中で、「君らは来年、入学試験ではないのかね」などとやられたが、一切平気であった。

一寸、まずかったのは、図画室の画板を応援用のブラカードに使うとして無断持ち出しを図ったのが露見、岡島先生、カンカンにおこられて、職員会議で問題になった。

結局、西田先生のとりなしで、3年部員は3日後の天高戦には応援に出ず、謹慎することで落着いた。たしか、この年のラグビー天高戦は棚橋君らの1年下の応援部がリードしたと思う。

あれやこれやの応援を通じて、北野に酔いしれ、当然のことながら浪人となった。

淡江君、檀君等の例外はあったが、バリバリの秀才達も、北野に酔い過ぎて、ポロポロ落ちたのだと思う。しかし、嬉しいことに補習科が待っている。六稜の星のしるしはつけられないが、下駄で同じ学校に行ける。現役の授業中にソフトボールがやれる。全浪連なるものを結成し、現役間の大手前交流体育大会の同日、同校の浪人とのソフトボールの試合もやった。夏の大府予選は、丹羽君が3年、今年こそはと連日押しかける。この年から始まった応援部の合宿にも参加して、先輩面してあれこれ指導する。

準々決勝の応援で藤井寺へ行く途中、最後の10台目の応援バスに乗っていて、大和川提防の手前で転落、血だらけになって女子生徒を救出。女の子にひしと抱きつかれて喜ぶ。

こう書いて行くと、浪人時代もやっぱり北野一色。毎日に夢があり、北野にいたことが誇らしかった。北野音痴とはこのことか。

しかし、最近の北野はかわった。

数年前、市岡の定期戦を見に行ったら、応援しているのは応援部の学生とひとにぎりの生徒。食堂には知らん顔した学生がうようよいする。野球部の選手は試合中にベンチから離れて友達と話している。もう、がっかりするより情なくなった。

日本航空に入社して

山根 (旧姓川上) 紀子 (89期)

「日本航空に務めている」と言えば、スチュワーデスを連想なさる方が多いでしょう。ここで御紹介する私の仕事は、「グランドサービス職」と呼ばれるもので、国内線及び国際線の発券や搭乗手続等を内容としています。

500名を超すジャンボ機の座席指定、集めた航空券に無効なものがないかの審査、空席待ちのお客様のお呼び出し、等を行なう日もあれば、昨今、複雑多様化する傾向にある、航空券の発券や経路変更等の仕事を担当する日もあります。また、夏休みなどは、多勢の「ちびっ子一人旅」のお子様を、幼稚園の保姆さんのように引率して機内へ御案内したりもいたします。

この仕事に携わっておもしろい点は、新聞テレビで報道される社会の動き、経済の流れを肌で実感するところです。

「ジャバユキさん」と俗に呼ばれる、フィリピンの女性もよくみかけます。さらには、彼女達が入国検査で、滞在先が不明の為ひつかかってしまった時は、私たちが、到着ロビーで「××プロダクションの〇〇様」などといって出迎人を捜し、事務所へ案内します。ハネムーン帰りのカップルで賑わう到着ロビーで、ヤクザまがいの出迎人と、まだ幼なさの残る彼女たちを見ていると、複雑な思いがします。

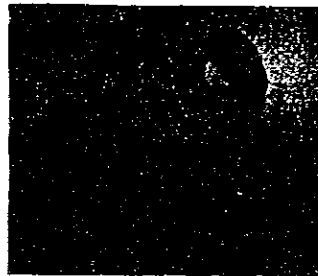
また、台湾の好景気を、台北発大阪経由ホノルル行き団体の増加で「なるほど」と納得したり、円高現象で、片道で航空券を買われる方の増加、海外発券の航空券がよく使われていたり、といった形で実感したりします。また、出発の際、相手国のビザのチェックを行なっているので、国と国の関係にも勢い、敏感となります。

一方、政治家や芸能人の素顔をかいま見る機会が多い点でも、おもしろい職場です。テレビでは大変美しいタレントさんが、真近に見ると、顔色がすぐれず、生気がなく、横にいるマネージャーのあやつり人形のようにであったり、感じのよい司会者と思っていた某氏の言葉遣いが横柄でぶっきらぼうだったり、国会議員の中にも、無理な要求を居丈高にされる方があったり、等です。その他、右翼、小指の先のない××組のお兄様方、春先によく出没する気のふれた方等、カウンターで対応する相手も様々で、多少のことには動じなくなりました。

さらに、国際色豊かなことも、この仕事の特徴です。中国民航の老酒の匂い、インド航空のドアを開けた時の

去年は、阪急電車の中で3人の与太学生がいる。みると北野高の襟章をつけている。服装態度を注意したら、何が先輩じゃ、何が北野や、と居直られたのには驚いた。

校長先生には一度、同窓会の後で冗談めいてお話ししたが、私は今、真剣に六稜同窓会で、北野高校を買い取れないかと考えている。



仕事の合同、
ほっと一息。
向って左
88期(S51年卒)
井上(旧姓加計)
弥生さんと。

むせかえる体臭の匂い。韓国からの飛行機のにんにくの匂い。それぞれ個性的で、目をつむっていてもどこからの便かが当てられます。国籍、人種、宗教の違いにより、お客様の好みも多様で、それに応じ、機内食にも、ヒンズー教徒には牛肉抜き、イスラム教徒には豚肉抜き、菜食主義者の為には野菜食と様々な特別食を用意し、ニーズに応じたサービスを、と気遣いをしています。世界の様々な国からやって来た人たちが出会い、別れる交差点、エアポート。その中で、心に残る出会いもいくつかありました。何げない気持ちでしたことが大変喜ばれてうれしかったことも多くありました。

このように変化に富んだユニークな職場ではありますが、欠航や長時間の遅延の折などは、忙しさを通りこして、まさに修羅場といった様相を呈します。ふと我に帰ると、朝から昼3時頃まで何も口にせず、トイレに行く時間もなかったことに気づいた、という日もあります。また、早番は5時に家を出て、遅番は11時に帰宅といった、とてもハードな交替制の勤務体系となっており、お盆お正月の世間一般のお休みの時ほど忙しい仕事です。

しかし、女性が男性と肩を並べ、責任ある職務をまかされていますので、大変やり甲斐があります。結婚後も続けている女性もたくさんいらっしゃいます。私も、実は、1歳になる娘がおり、仕事と育児・家事の二足のわらじを履いて、忙しい毎日をおくっています。なかなか大変ではありますが、いつか時がたち、ふりかえった時かけがえのない日々として、日航ですごした時が思われることでしょう。

今、わが社も民営化へ歩み出し、ローカル線の進出など新しい動きも始まっています。コストダウンの為の人員削減も、ますます進められることでしょう。これからどういった方向へ歩むのか未知の部分もあります。しかし、この転換期にあっても、私は、プロとしての誇りを持ち、私なりの「心のあるサービス」をめざして、一杯よい仕事をしていきたいと思っています。

座談会 北野の教育

I 戦中戦後篇——校長排斥事件のことなど

出席者 山川 信 夫 (8~23在職、元高津高校長)
西 田 曉 夫 (24~42在職、50期 元池田高校長)
西脇伊兵衛 (58期 会社経営)
坂 本 彬 (61期 医師)
秋 本 守 英 (62期 大学教授)
司 会 山 本 次 郎 (62期 弁護士)

山本 81歳におなりになった山川信夫先生を囲んで、終戦前後の北野の昔話とか、あの激動下の大阪の教育状況といったようなことを話し合いたいと思います。

それでは早速ですが、当時の立役者であった田村清三郎校長とギョロ先生が昭和18年5月に佐賀から北野に着任されるあたりから話を始めたいと思いますが、北野の校長として来られた経緯というのはどういうことなんですか。

山川 当時の情勢で判断して前任の長坂校長が非常にリベラリストなんですね。だからおそらく大阪府の学務課と大阪の師団司令部と文部省、陸相あたりが……北野は一流ですからね。大阪というところは商人の町で、市民精神がリベラルな気性になってしましますが、佐賀なんて農村ですから軍国主義が非常に強いわけですね。なんとか大阪を戦時教育の体制にもって行くには、北野の校長を代えないかんと。で全国を調べたら、佐賀中学で一生懸命に軍事教育をやっているのは田村さんだと。だから勿論大阪と相談して文部省が田村さんをもって来たんだろうと。というのは、僕の想像ですが。

山本 着任されたときの印象ですが、これを生徒の側から語って頂きたいんですが。

西脇 当時は着任された早々ですから、性格とかは。ただ、長坂先生は非常に上品な人で、風貌的にね。我々が入学した当時のいわゆるオットーですが、非常に上品な物腰であったと。一変して、田村校長は人相的にはいかめしいというか、決して上品じゃないですね、

顔立ちね。

山本 大声を出されませんでしたか。

西脇 私は、その印象はないんです。着任してすぐですから。

山川 目が非常に……私は、本質よりわざと芝居をしておったと思う。

山本 目を凝らしていたと。

山川 そういう気がするんですわね。鋭い目をしてね。目の光らん男は駄目だ、という風な考え方をしottaですわね。

山本 一つの迷信をもっておられたわけですね。坂本さんの印象はいかがでした。

坂本 非常に残忍な性格のように見受けましたね。とにかくオットーさんや教頭の石崎先生らの印象、その他北野の先生方から受けた印象が一変したように思いました。

西田 英語の矢野さんという方が、田村さんと喧嘩して辞めたというようなことを聞いてます。

山川 ああ、あの人はリベラリスト。

西田 池田中学に出てね。後で戻って来られたけど。

山本 18年に着任されて我々が19年に入った入学式のときから、もうギョロさんは実大声を出して。ヒットラーですね。一言で言ったら、ヒットラーの真似をしていたと思います。そして我々をヒットラー・ユーゲントのように育てようと。国家的要請もありますし、いよいよ本土決戦という時期にも差し掛かって来る時代ですからね。本土防衛の戦士として鍛えようという意味合いもあったと思うんです。2、3時間にわたる朝礼を何度も何度も受けましたね。その都度、生徒たちがバタバタと卒倒します。「今日は卒倒の数が少なか

った」と言って喜ばれると。お昼まで朝礼をつづけたことがよくあります。楠公精神を説くのはまだいいんですが、喧嘩のやり方を教えると。あの先生が喧嘩がうまくなかったかどうかは知りませんが、拳の握り方をね。「親指を中に入れては、相手を殴れん」と。

山川 それは僕も聞いたことがある。

山本 「親指を外に出して、相手を殴るんだ」ちゅう風なね。アゴ(秋本)なんか覚えてるか。

秋本 それ、覚えてる。僕なんかの聞いたのと話が違うと思ったんや。僕は「相手を殴るとき、親指を中に入れて殴れ」という風に、小学校のときは教わったんや。つまり、傷をつけないということや。そしてたらギョロは「親指を外に出せ」と。

山本 「親指を外に出せ」というのは、その方が相手をやっつけられるという意味ですね。アゴの小学校とは教育が正反対や。

秋本 それと、もう一つはね、「中に入れた親指をやる」と。

山本 うん。だから、こっち本位の、自己本位の発想だったと思うんですね。西脇さんは昭和20年の卒業式までおられたんですが、ギョロの問題で何かありませんか。

西脇 そうですね……私の個人的な問題も関係して来るんですがね。実は私が4年生から5年生になったとき、昭和19年、私の当時の担任は前川武先生やったんですが、内示を受けましてね。「お前、今度、5年1組の組長をやれ」と。今でもはっきり覚えてますが、「私の成績はそうじゃないでしょう」と。大体、判りますからね。(笑)「先生、なんですか」と言うとき「校長命令やから、お前が5年1組の組長になれ」と。当時の心境としては、えらいことになったなあと。北野の5年1組の組長と言えば全校を代表する組長であるし。山本 西脇さんは柔道やっとなし、可愛かったんでしょうな。

西脇 可愛かったというより……田村校長の頭の中には、学問よりもまず声が大きくなけりゃいかんと。朝礼で声をかけるし、声がひ弱な

もんではいかんと。

山本 昭和20年のギョロ排斥の糾弾集会で、西脇さんの演説の声が大きくてね。「言語道断演説」と僕は言うところですけどね。

山川 話は別ですが、ギョロさんの性格を表す逸話がありまして。終戦後、進駐軍の命令で「職業軍人であったものは身分はおくけども、生徒にタッチさせてはならん」という指令があったわけです。本来なら、そういうことは校長が抗議に行くべきですな。僕は昼の正教員じゃない。定時制の教員ですわな。ところが「山川、これ行って来い」ということで、浜田さんそこへ行ったんです。

山本 浜田成政先生はそのとき……

山川 大阪府の視学官でした。普通なら、怖いですがな。

山本 昭和20年の何月ぐらいですか。

山川 10月ぐらいですな。日本の軍人というのは……満洲なんかでも、部下を殺しても自分は逃げるという習性が日本の軍隊にあったわけですが。そういう性格の反映が、田村先生にあったんだらうと。田村さんは、空襲警報のとき顔色が変わるんです。脚裏影がある防空壕の中に、いつも自分は隠れておって、奥さんも隠れておって、部下を指揮するわけですが。嫌な……視学官に喧嘩に行くわけですから、僕をやったろと。ギョロさんの性格ね。田村さんとはね、僕が夜間の主事で、よく飲んだんです。「校長さん。あんたは心臓は強いが、度胸は全然ないな」と言ったら、怒ったわけや。「空襲警報が鳴って飛行機が上を飛んだら、僕は平気なのに、あんたは真青になるじゃないか」と。そしたら、嫌な顔しましたな。

秋本 そう言えば、空襲の最中に校長の顔を見たことないな。

山本 空襲まで話が飛びますが、大阪の大空襲は3月13日の晩と6月1日、7日、15日の朝で。私は2年5組でしたがアゴは陸幼組だね。

秋本 うん。陸幼組という独立組。2年生になると皆動員に行ってたわけですが、「幼年学校志願者だけ

は学校で受験勉強しろ」というので、勉強する組やったんです。

北野中学校職員会議録より

S19. 4. 29 幼年学校志願者補習教育ハ五月ヨリ実施シ数国作歴地生ノ各課目ヲ地理教室ニ於テ行フ。

S19. 5. 13 上級学校受験者ニハ動労働員ノ特別扱ヲ為サズ、但シ陸海軍諸学校受験者ニハ試験前一ヶ月ハ出勤ヲ差控ヘルモ妨ナシ。

山本 私は石川周三や原寿治らと2年5組で、これは宝塚線の組なんです。2年6組は佐藤功、川本新一郎、杉原光威らで神戸線の組。週番警備を2年がやっていた、24時間勤務でね。朝の8時に玄関ホールで交替して、24時間の警備につくと。5組の宝塚線と6組の神戸線が交替するときに、空襲警報が鳴るわけです。1週間ごとに鳴る。その間に、この陸幼組が務めることもあったんですが。とにかく宝塚線と神戸線が交替する朝に、判でおしたように大空襲があったんです。6月15日には中島君や池田君が亡くなった。彼らは2年5組ですね。中島が桜ヶ丘に住んでいましたから、「中島のところへ、死亡報告を伝えろ」とギョロから命令を受けるんですが、そのときにギョロがおったことは知ってるし、朝の交替のときにおったことも知ってますが、空襲中は生徒たちが一生懸命に火中に飛び込んでやってくるのに、ギョロが消火作業を指揮してたことは一度も記憶にない。まあ、どっかにおるんでしょうな。講堂に駐屯しとった補充兵のおっさん連中も、一緒にやってくれました。まあ結局、そういうことをしたのは、生徒と二、三の先生方です。校長が率先垂範を示してくれてたら、僕らもきつと救われたでしょうがね。

山川 それは、さっき言った、日本の軍人というのは部下を殺しても自分は逃げる、という習性と似てますね。

山本 「北野戦後史」の原稿依頼で僕が川井義通先生とこへ行ってお願いしたとき、一杯飲んでいろいろ

話してたら、「防空壕が鉄筋コンクリートなんだよ」「鉄筋コンクリートの防空壕に入って、酒飲んでったんだよ」と。中島・池田は廃材で作った壕で死んでるんです。糾弾集会の場でそんなんがでたら、もうお終いですな。そのときは今ほど情報が発達してませんよ。

それから、僕がギョロさんのことで非常に残酷な印象を受けてますのはね……朝礼なんかのときに、長広舌を振るってるもんですから、生徒があくびをしたり、或いはちょっとだれるような風を見せると、直ちに「この列、番号！」と番号をかけます。「その前の横！」とか言って、あくびをした生徒をつきとめて。そうすると、ごますり教師が走って行って、その生徒の両腕を捕まえて来て「先生、これですか、これですか」ちゅうて、連行して来るわけですが。即刻、無期謹慎か無期停学を発令する。

秋本 僕が覚えているのは、朝礼台で長広舌を振るるとき生徒があくびをした。そしたら台から降りて自分でグーと走って行ってね。自分で胸ぐらをつかんで殴って。ほんでまた戻って、いきなり「無期謹慎を命ずる」と。

坂本 それは馬淵君のことではありませんかね。もう10年くらい前に亡くなったけど。それから真島君なんかもやはり無期停学で、校長官舎の周辺道路の清掃を2ヶ月もさせられたというんです。これは今は大変まっとうな男で、こないだ聞いたばかりですが、そんな事例は数限りない。僕らの期ではものすごく恨んでる人が多いですね。

山本 とにかく、口頭で無期謹慎・無期停学の乱発という印象を受けましたね。校長は懲戒権を持ってるわけですか、あの当時。

山川 そら、持つとるでしょうね。

山本 だけでも普通の場合は、職員会議を開いて、先生方の意見を聞いて発令するんじゃないですか。

山川 即座にやるちゅうのは、戦争前の法規を知らんけども、教育としては問題があるでしょうな。

秋本 そういうところは、戦後しか

知りませんが……まず事情をちゃんと本人から聞くなり何なりして。
山川 懲戒というのは……やっぱり本人に言って聞かして、なるほど悪かったと思わせるのが、懲戒の真意ですわな。それをやらないで、その場でやるというのは、今から言っただけで仕様がなないけど、教育的措置ではないと思いますわな。

山本 昭和20年の8月10日頃、服部農園で我々の期の……八木彰一郎という死にましたけど、仏さんみたいな男がおりましてねえ。彼の班が無期謹慎を食ってるんです。その翌日でしたか、体育館の前に彼らが粛然と整列して。「お前ら、何しとるんや」と言うたら、「無期謹慎発令や」と。その原因を、八木君が亡くなる前に聞いたんですが、結局、命令系統の不統一というか、責任体制の秩序がなくなってるんですな。末松という大工を監督助手に雇ってたんですが、その大工が「お前らもう帰ってもええぞ」と、4時頃に言うたらしい。それで生徒たちが帰ったと。そしてエスケープしたということにされて、臨教の連中がそれを密告、校長が「これは軍規違反であるぞ。直ちに無期謹慎を命ずる」と。

秋本 言葉を訂正すると、あのときはむしろ停学という言葉を使ってたんじゃないですか。つまり、謹慎なら指導になって学籍簿に付かんのです。停学は処分になるからな。まあ、そんな記録もないやろな。とにかく、無期停学の貼り紙があったのは、僕は覚えてるな。

山本 八木君は、昭和25年に北野高校を出るときに、大阪府の知事表彰を受けたくらいの真面目な男でした。それが京大へ行くときに、「私の終戦のときの無期停学、賞罰に書かんでいいんですか」ということを、彼はユーモリストやったから、言うたということを知ったんや。つまり、学校としては本気で処分をしたのかどうかね。

秋本 そうなると、処分なのか、賞罰なのか、指導なのか、全然判らんですわ。

山川 とにかく、謹慎であっても停

学であっても、記録を残して外には公表しないというのが、教育者の常職ですわな。記録を残さんなら、法的にはおそらく無効な放言にすぎないな。

西田 ちよっと乱発ぞみと言うか……権力に溺れて迂闊に言うてしもて、言うたんだけども実質はそのままにしていって、後はうやむやになったと違いますか。

山本 念のため、こないだ学校に問い合わせましたら、田村校長時代の懲罰の記録は見つからんそうですよ。それから6月15日、池田君と中島君が亡くなった日のことになりますが、あのときは山川先生も学校におられたんですわ。

山川 その日は出勤日だからと行ったら、空襲があるっていうんで、阪急が止まってる。地下鉄はあるんですな。阪急側を歩いて、十三大橋を行っただけです。空襲警報でほとんど人がおらんのですわ。

山本 9時頃からでしたわ、空襲は。

山川 学校へ行ったらね、校長は防空壕の中に奥さんに入っとるわけです。そのうちに焼夷弾が落ちて来て、校長官舎に火が付いたんです。一海という2年生の子が落ちて、親父をよく知ってるんですが、2人でバケツで消しよったわけです。相当、火が燃えてるもんでね。

山本 一海後景君ですね。一海は真面目でしたから。

山川 2人で消して。それから、空襲が済んだ頃に雨がザーと。一天にわかにかき曇り。

山本 お昼頃、真黒な雨が降ったんですわ。

秋本 11時頃やったな。

山川 帰ったら、一人死にかけてたね。養護室に寝てると。

山本 死にかけてたのは、池田君なんです。

山川 名前は知らんのですがな。行ったら、誰もおらんわけですわ、教員はね。養護室に行ったら看護婦さんがおりまして。中山さんが。

山本 中山久万衛さん。ヨーチン婆ですわ。

山川 その人と2人でね……真青な顔して、まだ脈はあったんです。

鉄兜をやられて、左の足が何かを。
山本 左の肩をやられて左の足をえぐったんです。担架で、僕らの前を通過して行きました。そのとき、足から白い神経が……神経というのは、割と太いもんでね。太い白い糸が出とるんです。紙のように白くなってね。そのまま、医務室へ行っただけです。すると医務室で、山川先生が久万衛さんと……

山川 2人でね。最後まで、脈が切れるまで、僕は見とったんですよ。

山本 そのとき、僕は名前を呼ばれて「校長室へ来い」というんで、行ったら、窓際のソファのところに、中島君が黒焦げになって寝かされておったんです。かろうじて、中島と判る程度でしたが、そのとき、校長が「お前は中島の近所らしいな」と。中島は箕面村の桜ヶ丘に疎開して来ておったんですが、私と石川周三は牧落ですのわ。「今から、戦死の報告に行ってくれ」と。当時13歳でしたが、これはえらいことになったと……

山川 電車は動いてないでしょう。

山本 電車は全然。えらいことになった、と絶句したら、そばにおられたチョビ髭の小松忠雄先生が、「戦死はいかんでしょう。『中島君が焼夷弾にあたって、お亡くなりになりました』とこう言いたまへ、君」と僕に教えるように言ってくれたんです。そのときギョロは、ギョロッと見とったですけどね。小松先生が校長の命令に抵抗したわけですな。僕がなんでそんなことを覚えてるかと言うと、小松先生というのは授業もうまかったけども、これはなかなか先生だなというか、そのとき非常に尊敬の念を感じましたからね。実は……我々は、昭和20年の暮春から、24時間勤務で過番警備についておりますので、校長官舎の塙のあたりをよく巡察しておりました。校長官舎の中で、ギョロとコマッチャンが酒を飲んで、大声で言い合ってる。コマッチャンは「あんたの教育方針はなっとらん！」と。こういうことを酔っぱらって叫んどる。それをまあ、子供は聞いてるわけな

んですが。小松さんとギョロさんは、仲が悪かったんですね。

S20. 5. 2 (校長二関シ)二十年
度陸軍諸生徒募集二尽力セシタメ、
大阪師管区司令官ヨリ表彰サル。
(29日午後) 学校トシテハ本校ノミ。
山川 国民に酒のなかった戦争中
でも、校長はしょつ中、酒を飲んで
おるわけですか。

山本 その酒はどこから出ましたか。

山川 大きな会社が梅田にあってね、
航空部品を作ってる工場なんです
な。戦後は全国の特許納税者で、
5、6番になったことがある、そ
の親父の息子が北野の2年生にお
ったんです。その親父が軍需工場
の酒を田村さんに隠しとった。そ
れで小松さんと僕と田村さんと3
人で飲んでたんです。ところが小
松さんが、はっきり物を言うたわ
けですよ。すると、「お前、けしか
らん。もう、お前は首だ」と言う
たんです。生徒に聞かれてるのと
同じですか。

山本 校長官舎でね。

山川 校長官舎で3人で飲んでて、
奥さんは奥におるわけです。僕が
「田村さん。あんたは戦争中に、ど
っから来た闇の酒を飲んで部下
と喧嘩ばかりしてたら、俺は大阪
府に言って、あんたも首やで」と
言うたら、ちょっと青くなった。
翌日、僕は小松さんに「小松さん、
あんた辞めたらいかんで」と。僕
は小松さんを非常に尊敬しておっ
たんです。話は飛ぶけど僕が学事
課長だった頃、小松さんは吹田高
校の校長になった。その当時、「俺
は校長は嫌いだ。平の教員でおり
たい。皆が授業やってるとき、校
長一人が馬鹿みたいで。酒ばかり
持って来るんだよ。俺は校長は
嫌いで、授業するのが好きだ」と
言ったんです。僕は頭が下がった。
坂本 校長の酒の話ですけどね。校
長は6月15日の、あの生徒たちが
死んだ晩も酒を飲んでたというこ
とを、私聞きました……………。

たしか61期の集りでその話が出
ました。彼は酒乱みたいなのころ
がありましたね。

山川 今、戦時教育について、話合

ってますわな。北野にも随分と立
派な先生がおったが、高津にも戦
争中に久保川平三郎という校長が
おってね。終戦後、たくさんの子
供を戦争にやって申し訳ないと、
辞表を出して「生徒諸君を戦争に
駆り立てて、教育者としての責任
を痛切に感じる」という切々たる
訓辞を残して、学校を去った。こ
の後、卒業生が感激してね。久保
川先生は英語専門ですから、近畿
大学の講師になってね。先生に栄
養をつけてやったんです。この先
生を僕は前から知ってますから、
僕が高津の校長になったときに、
お茶を持って、挨拶に行ったわけ
です。奥さんと2人で小さい家で、
体が弱ってて寝込んで……「よ
う、来てくれた」と言っただん
です。日本全国におそらく何百
と中学校があったと思いますが、
こういう人は一人だと思いますわ。
そういう姿勢のある高津はよかつ
た、と思います。

山本 天中出身の友人からはこんな
話を聞いたんですが。天中もあの
当時、ギョロさんの北野とは大分
違って国語の滝川先生という方は
「この戦争は負けるで。不利やで」
としょつ中、言うんだそうです。
そうすると勿論、憲兵が出て来て、
この先生を取り調べる。ところが、
憲兵司令部から戻って来ても、ま
た同じことを言うておったと。そ
れから、英語の先生で青山という
先生は戦争中も戦後もハンチング
をかぶって学校に来ておったと。
軍事教官のガラスとかいう下士官
が非常にいきとつたけれども、
ガンとしてハンチングをやめなかつ
た。この先生も特高からにら
まれて、何度も警察で泊められた。
あの当時としては思い切ったこと
を言う人がいて、そういう風な人
たちに好きなことを言わせておっ
たのが、田中校長であつたと。田
中校長は生徒たちに、戦闘帽をか
ぶって来ることを要求しなかった
というんですよ。「物のない時代で
すから、戦闘帽をわざわざ洗える
必要はないでしょう。小学校のど
きの帽子に、天中の記章を付けて

来なさい」と言うておったんです
な。田中校長の話は知っておられ
ますか。

山川 僕が視学官になってからと思
うが、2、3回会ってね。とにかく、
頭が下がったな。こんな偉い
校長がようおるなど。昔の中学校
の校長というのはやっぱり偉い
と思いますな。中野正剛という、
東条と喧嘩して割腹した政治家だ
が、「俺は政治家になったが、本当
は中学校長になりたかった」と。
あれはリベラリストというより、
右翼ですわな。それほど政治家が
教育ということを大切に考えてる
というので、記憶に残ってるん
です。そういう校長が、あの時代
にはおったんですわ。田中さんな
んかは、その例やと思いますわ。

山本 さてここで、いよいよギョ
ロ校長排斥運動の話に入りたいと
思います。我々在校生が、昭和
20年秋の或る日の午後……………

山川 あれは、何月頃ですか。

山本 10月の終りぐらだったと思
います。講堂に集められました。
そのときに、黒マントの先輩たち
がたくさん来まして、糾弾演説を。
ギョロの糾弾排斥演説ですな。あ
のときに、「言語道断！」と一生懸命
に徽を飛ばしておられた方がこ
こにおられる西脇さんですが。(笑)
同窓会がああいう動きを始めた
動機は何だったんですか。

西脇 私らは既に卒業してありまし
たが……校長の教育者としてのあ
るまじき豹変ですわ。いわゆる、
無節操ということについて……………

山本 戦後の豹変ですか。

西脇 そうです。いわゆる、無節操
ですわ。

山本 あの当時、よくボツダム人格
者と言いましたが、それですか。

西脇 はい。それが一番のああいう
運動の起こったポイントなんです。

山本 あのと、西脇さんの後で理
路整然とした演説をされた白面の
弁士は、当時三高に行っておられ
た北村汎さんでしょう。黒マント
でね。同窓生がああいう風に徒党
を組んで、徽を飛ばしに学校へ来
るようになった経緯を、ちょっと

伺いたいんですが。

西脇 あれは当時の世相というものがありますね、一番の基本には。流行じゃないが、僕らの場合は早かったんですよ。

山本 学校に来て、学校当局者と話をつけ、講堂を開けさせて、生徒たちの授業をやめさせて、生徒たちを講堂に集めるというまでには、大分根回しがあったと思いますが。

西脇 それまでに何回も、それぞれの諸君の家で会合をもってますね。

山本 どういう風な話し合いを。

西脇 我々は当時、戦争に対して否定とか……例えば、戦争に協力したからどうだとかいう風なことはウェイトをおかなかった。

山本 皆が聖戦貫徹のために働いたことは、事実ですからね。

西脇 しかも、真面目に純真にやっていたわけですからね。むしろ逆に、戦争反対であった方が日本人らしくないじゃないか、という風な考えを持ってましたね。そうではあったが、ただ田村校長が豹変したと、人格がね。それが教育者としてあるまじきじゃないかと。

山本 それは、お亡くなりになった平石先生からも、亡くなる前に伺ったことがあります。明けの日の8月16日、校長室に入って行ったら、校長の態度が違うんですって。「いやあ先生。どうぞ、どうぞ」と言うて全然態度が違うので、ピンタがたまげたと。

秋本 8月15日以降の田村校長の印象というのは、全くないんですわ。

山本 8月15日の前後でまるっきり変わったからね。糾弾集会の前に、校長が出て来よって、今まで居丈高にヒッターみたいに号令しとった人が「同窓会の先輩たちが諸君らに話があるようだから、聞いてもらうことにするが、どうか諸君らは付和雷同せんぞ、本校の生徒らしく規律正しい行動をとってほしい」というようなことをオドオドと言いました。すると、校長とは事前の折衝をなさっておられたんですね。

西脇 こういふ話をするんじゃ、貸しませんわな。だから、私の記憶

では、校長糾弾じゃなしに、という作戦のもとにやらして頂いた。山本 どういう風にもちかけられたか。

西脇 当時、私の一番記憶にあるのは……講堂も非常に荒れておりましたし、「六稜魂」の額も染みがいつとった。そこらへんから、在校生の諸君に六稜魂を喚起するという風なことだね。形は変わっても、海軍の先輩がハッパをかけたようなもんで、戦後のあの時期における後輩諸君の奮起を促すという風な、先輩による後輩に対するハッパということで話を聞いてくれと。今でも覚えておるんですが、僕がトップで口火を切ったと思うんです、当日ね。順番に出ていきますから、「僕は、先にこれやるぞ」と。勿論、当日は作戦も練ってありました。で、お聞き及びのような集会になったと。

秋本 僕らが講堂へ行ったのは、「先輩から話があるから、講堂に集まれ」という、それだけやったな。我々は「ああ。そしたら、また徹を」と。そう、頭から思ってた。

西脇 そうです。そういうムードでしたから、田村さんも想像はしていたけれども、やっぱり弱かったんですね。先程おっしゃられた、8月15日を期にして変わったのと同じように、非常に精神的に弱かったんでしょうね。

山川 10月かその頃の新聞で、上野の女子校か何かがストライキをやったんを見たんです。田村さんに、「北野の連中はデモやるで。頭がいいから、必ずストライキが起こりますぜ。ですから、どう対処するか考えといた方がいいですよ」と僕は言ったんですよ。ちょっと青くなって、「そうかなあ」とか言っただけで心配そうな顔をしましたわ。

西脇 当時、僕らが校長室で話をしたときにも非常に低姿勢でしたよ。

山本 昨日、三木先生が電話口で笑ってられましたけど、田村校長が青森へ戻られてどうおっしゃっておられたかという「私は北野という、大阪の自由主義教育の学校におったんですよ」と、戦後話し

ておられたんだそうですよ。(笑)

豹変から始まったんですが、あのときは怒号が飛び交って、結局、軍国主義的校長は追放せないかと。ところで61期の坂本さんは当時3年1組の組長で、在校生代表として演説をなさったのを僕は覚えてるんですがね。「肅清するぞ」とね。「肅清」という言葉を僕はそのときはじめて覚えたんです。

西脇 僕の弟と同期でしたね。

山本 「お前らもしっかりしろ。しっかりとせんと、肅清されるぞ」という威嚇ですな。ようするに、一致団結して、この校長を弾劾追放しようという風な結論になったと思うんですね。あのときの演説のことは覚えておられますか？

坂本 それが覚えてないんだ。恥しいなあ。本当に覚えてないんです。

山本 僕らの期の代表は北村日出夫で、彼によればあれが生れてはじめての演説だというんですがね。

西脇 簡単に言えば、我々卒業生が火を付けて、後は在校生の方で主体的なことになった、と思うんです。田村校長が転勤される直接の原因は……いつですか、転勤は。

山本 それがね。その後まもなく、「校長は島根師範へ転勤しました」という話を聞いただけで、在校生に対するお別れもなければ……

秋本 普通だったら、校長が出られるときは当然、離任の演説があるはずですね。

山本 それで、全くなくてね。校長が消えたんですよ、学校から。

S20. 12. 7 (田村校長先生)島根師範学校長二御栄転ニツキ御挨拶。一、在任中何ラナス所ナシ。二、世話二ナツタ許リ。三、今後共宜敷ク。(河合先生)餞別ノ件ニツキ、100円贈呈。保護者会ヨリ、「生徒一人一円以上贈出」

山川 糾弾集会か何かのときは、校長に決議文でも持って来るのが普通ですがね。その場合は、決議して代表が校長に会いに行ったんですか。

西脇 いや、そうじゃないです。校長に「辞任せよ」とかいふ戦法はとらなかったんです。まず、在校生

にそういうことを知らせようと。在校生の気持ちをそういう風にもって行こうと。僕らとしては、当時は割に穏便だったんですよ。「あんた、辞めなさい」とか、「これが決議文です」とかいう団体交渉的な行動は、我々は自制してました。

山本 ただ、学校の職員会議録には、生徒が府庁に行ったという記述がありますね。

S20. 11. 9 (教学課長ヨリ)盟休二関スル件。生徒ノ府ヘノ陳情ハ根據ニ乏シモノガ多イ。府トシテハ学校側ニ立ッテ善処スル。

山川 そうであれば、おそらく田村さんの方でも「ここにおれない」と。高津の校長さんなら辞表出して行くけども、まだ生活もあるの、大阪府と文部省に相談して、「どっかに出してくれ」とね。それに似たケースはたくさんあります。

最後は青森県教育長ですか。

秋本 北野からは、まずは島根師範でしたわ。

山川 ええ。島根師範へ行って、何年たってか知らんけど、青森の教育長になったんですわ。

山本 実に、啞然とするものを感じますな。

山川 そのときの日本人は、国の政治家でもそうですが、戦争中に、「日本が戦争を始めたからにはやるのは当然だ」と言って協力した結果、辞めた人もおるし、うまく泳いで日本の権力の地位に上がっている奴もおりますわな。これは人間の生き方ですわな。

山本 ドイツとかイタリアなんかの例と比べても……大日本帝国は滅んで民主権の日本国になりましたけども、やはり大日本帝国当時の連中が随分、新生日本国の権力構造に生き残りましたからな。

山川 日本人といってもね、ピンからキリまでありますわな。その中で、日本人がどういふイデオロギーを持っているかというのは、歴史上の非常に難しい問題です。日本人でもいろんな生き方がありますから。その中の一つの例が田村さんであり、高津の久保川さんということになるんじゃないです

かね。

山本 アゴね。旧制の松江高校受験で松江に行ったとき、1年上の真島さんらと一緒にギョロここに泊まったんか。

秋本 いや、泊まってないよ、行ったんや。

山本 挨拶に行ったんか。

秋本 挨拶というより……

山本 様子、見に行ったんやろ。(笑)

秋本 真島さんと俺と劉と、「ここにはギョロがおるから、一回見に行こか」と。(笑) そしたら、「君ら、受けに来たんやったら、やっぱ縁起ものや」と言うて、赤飯を奥さんが炊いて下さって、その赤飯を御馳走になってね。風呂へも入れてもらって、帰ったんや。そのときに、真島さんには「お前は仕様のない奴やった」とかいう話をしてね。僕が陸幼組の話をしたら、バツと顔色を変えはったんです。

S20. 6. 13 (金田先生)幼年学校受験ニツキ、割当制トナル。本校ハ35名……色盲モ合格ス。

西脇 今、山川先生がおっしゃられたように、田村先生も一種の気遣いじみた時代が生んだ、割に単純なものの考え方を持っておられた先生だと思えますわ。先程のお話にある天中の校長先生とか、或いは従来の北野の校長先生とは異質の……普通の時代なら、北野に來られないタイプじゃないですか。

山川 そういう人事をやったのは、田村さん個人の責任よりは、日本政府の行政権力なんですわ。

西脇 だから当時の時代は、今から考えれば、何もかも常識では判断できない時代ですわ。

山本 山川先生。田村校長は一高から東大の経済ですが、何を専攻されたんでしょう。

山川 専攻というものはなかったんじゃないですか。というのは……僕はいろんな人間のところへ行っただけで、その蔵書を見るわけですわ。田村さんは、僕は校長室へもよう行ったが、殆ど書物はなかったようすわな。校長官舎にも。

山本 校長が来てからの実績に(笑)、昭和19年だったと思いますが、教

練の査閲で北野は例年、「概ね良好」とかあまり芳しくない成績だったんですが、初めて「教練優秀」になったことがありますね。実際、猛訓練をしたことはしたんだけど……査閲のときは僕は1年1組で、行軍中に三木先生から「山本、どこへ行く！」と言って叱られましたけど。班長の僕と一緒に軍隊が迷走しましてね。(笑) 迷走して、とても「教練優秀」の成績ではなかったはずなんです。ところがその前にギョロが入れ知恵しまして、朝礼で「今度来る査閲官を親の仇と思って睨めつけい！」と。我々は、大佐か何か知りませんが、おっさんが歩いて来よるのにガンをつけたんです、皆で一斉に。そうすると、ちょっと恐縮したように身をかがめて、通って行きよった。「こいつ、大分感じたな」ということを我々は感じたんです。(笑)

山川 そういう点が、北野の生徒は頭がいいんですよ。最後の土壇場のときに、うまく演技するんだね。

秋本 あれは師団長は関係ないのか。

山本 師団長は関係ないやろ。「優秀」には。師団長の息子が我々の期にありましてね。

秋本 関源六中將の息子がね。住金の原君が云ってましたが、関君は入学試験のときに、師団の武官がついて来てたというんやけど(笑)

山本 片山清太郎によれば、駐屯軍の兵隊が関に敬礼しとったというんだ……(笑)

西田 そこらは大分、関係あんのとちゃうか。大抵、査閲的なものをやったときは、まず80パーセントまで「概ね可なり」と。

山本 「教練優秀」は初めてですよ。それで、ギョロがものすごく自信を持ちましたね。

さてここで、今まで永々と話して来たギョロという人の性格について、坂本さん、医師の立場からはどういうことになるんですか。

坂本 そうですね。人間の性格を分類する一つの方法として、正常人格と異常人格とに分けることができますが、異常人格は精神病ではありません。精神病質というんで

す。これをドイツのクルト・シュナイダーという人が十に分類したんですが、おそらく田村校長はその内の無情性性格 (Gemütlose Persönlichkeit) の疑いがあると思いますよ。(笑) 人間なら誰でも持っている思いやりとか憐れみとか情とかを持っていない性格だったようにも思うんですがね。

山本 ギョロも時代の犠牲者だったという説もあるんですが……

坂本 とてもとても……時代を百パーセント利用して生きて、戦後になっても自己批判をせず、巧みに東大閥を利用して生き延びた男ですよ。天人ともに許すべからざる……これはちょっと、云いすぎかなあ(笑)……。

S20. 12. 14 田村前校長ヨリ電報——無事就任ノコト。

山本 いろいろな話がございましたが、そういうことで校長が消えまして、しばらく校長不在でしたね。昭和21年の1月末になって、浜田先生がやっと校長として着任なさるわけなんですがね。初めての講堂での校長講話は、イギリス風の人格主義を話題になされたように思います。それからだんだんと生徒たちも落ち着いて来ました。やっぱり生徒というのは直感力が発達していると思いますね。

山川 浜田さんというのは、やっぱり行政官の中では、心のある……あまり読書家ではない。ただ、思考力・判断力が実に正確なんです。卒業論文がカントですからね。

山本 浜田先生の校長時代は、北野は平穏だったんですよ、この2年間は。浜田先生の書かれた「北野戦後史」なんかを読みますと、軍政部との交渉では当時、ジョンソン旋風と言われたなかなか荒っぽい教育担当官がいったようですが、自分との間は割とスムーズに行ったということを描いておられますね。それから、新制高校への切り換えの仕事が一段落した昭和23年の5月頃、浜田先生が軍政部からある勧告を……ジョンソン氏から、「府立の学校の名前を全部変えてしまえ」という勧告を受ける

んですが、そこらへんの話。

山川 僕もたびたび接触したが、アメリカ人は、日本人と比べたらはるかに合理主義なんですね。理論をもって言うたら、向うは納得するわけですね。浜田さんはジョンソンに、「日本には宗教もない。それに国は滅んで。学校の名前くらい残さなければ。アメリカはあまりにも無慈悲な占領をするじゃないか。それで日本人が進歩すると思ってるのか」と言ったらしい。ジョンソンはそれを受け入れた。で、名前はそのままになった。ジョンソンは次に京都へ行くんです。京都は進駐軍の言うまに、小学区制にね。あれは皆、失敗で。大学に入るのが高校の教育ではないけども、大分悪いです。浜田さんは大阪の教育を守るために、理論的に正しい事情を説明して、向うを説得した。そういう功績はよそにないと思います。

山本 全国でも大阪だけですね、名前と実質が残ってるのは。抵抗なくして伝統なしですな、まさに。

山川 右翼でもないし左翼でもないリベラリストとして、日本の民族性を守るべきだという意識がはっきりあったから、それができたと思う。浜田さんの中には、日本の民族の伝統を失ってはいけないという意識が心の奥にあった。それで、理論的に言うたら、進駐軍が浜田さんの意見を聞いたと。これは特筆すべき浜田さんの偉さだと思う。もし浜田さんがおらなかったら、大阪の教育は相当変わっていたらと思う。

山本 浜田先生の在任期間は2年と短くて府庁に帰られ、後に林武雄先生が見えますね。林先生は後年、北野を代表する名校長と謳われるんですが、着任後はいきなり連鎖自殺で。そのとき、西田先生が海兵教官、関学の専門部の講師を経て、鈴木カリヤン先生のたつてのお願いで北野にいられた。あの当時は野球も強うございまして、カリヤン先生が野球部長、西田先生が副部長で、いきなり甲子園へ行きました。連鎖自殺は起こるわ、

甲子園では優勝するわだね。あの当時の六稜新聞で、西田先生が、「君、エントロピー増大の原理を知るや」というエッセイを生徒たちに書かれた。「目を見開き、新しい空気を胸一杯吸って、青年らしく立ち直ってほしい」という趣旨の文章を書かれておられましたな。

西田 何か知らんけども、「自殺は止められる」西田教諭曰く」と、新聞が書きやがったのを覚えてるよ。「自殺は止められる」なんて一言も言ってないのに。(笑)

山本 まあ田村校長の後遺症としては、当時の北野の生徒に甚大な後遺症が出たんですね。終戦後、僕らは人間不信と情緒不安定の極に達したんです。例えば、講師を外部から……阪大教授とか、随分いろんな先生方をよんで来たんですが、講師がもう話できないくらい生徒たちがザワザワしてね。

秋本 それ、覚えてるな。阪大教授が、何か怒りはったやろ。

山本 そういう状況だったんですが、シーンとなって話を聞いた初めは、林校長がお見えになって、第1回目の講師として京都大学教授の原随園さんと呼んで来てね。ギリシャ史の原、ローマ史の林というコンビで、雄山閣から歴史の書物を出しておられた縁でしょうけどもね。ギリシャ哲学の話が何か……

山川 あまり判り易い話と違いますわな。

山本 それがね、生徒は初めからシーンと。ついに1時間あまりの間黙然として聴いてね。最後に、拍手して原先生を送り出したんです。そこらあたりから、大体元の状態に戻って来たんでしょうかな。

その後の話としては、山川先生と西田先生が大阪府の教育委員会を中心に大活躍をされ、そのお蔭でいまだに北野高校が全国の公立高校の中でも優秀な成績をあげています。まあしかし、先生方もいつまでもお元気で。長い北野の歴史の中で、まだまだ語って頂かんといかんことがぎょうさんございます。本日はまことに有難うございました。

北の空にともに歌う校歌

西 岡 弘 (46期)

六稜の星のしるしを 青春の額にかざし

紅顔の子弟幾百 日に通う北野中学

その昔 難波・御堂に堂島に次ぎて北野に……と歌詞は続く。所は北海道滝川市ホテルスエヒロ八階の食堂。歌うは、この地に5年前に開学した国学院女子短期大学学長の私と、同短大の英語科学科長小林敬爾教授（他に国文科と幼児教育科あり）。私は昭和8年の北野卒、小林先生は同18年、戦争で広島に疎開されるまで北野。私はこの春定年（昨年5月満70）で母校の国学院大学を退職し、名誉教授に推され、ほっとしたやさきの6月1日、図らずもこの短大の二代目学長を命ぜられ、浅学菲才、とてもその任でないと、心細い思いで赴任したところ、めぐりあえたのが北中後輩小林教授。どれだけ心強く感じ、有難いめぐりあいに感謝したことか。東海大学より本短大に転じてみえた小林先生から、「先生ノ覚えていらっしゃるのか、北中の校歌を!!」と囁きかして、まるで青年のように話かけて下さった時、はっと自分の

耳を疑った。新学長が自分の先輩だと喜んでいて下さったのだ。私は新任早々、とても先生方のことは存じあげるといまでもなかったので、本当に嬉しく、また感激に胸詰る思いで共に歌いつつ、茫茫50年の昔を思いおこした。

大阪梅田駅裏に当る北野から、当時大評判になったシャネリア輝く講堂を持つ十三の新校舎へ、椅子や銃をかついでの引越し。まだ東海道線に丹那トンネルが開通せず、御殿場通りのS.L.で上京した浪人生活。既に旧制4年から級友は一高・三高へ次々に進学していたが、昭和10年春、この年も本郷に容れられず、国学院大学の師範部入学。終戦の翌年、母校の大学講師に迎えられ、中国文学を講じ始めて今春退職。これから年金生活へと思っていたのが、こうして北迎の地で北中の校歌を共に歌える喜び。折から北野高校から「六稜魂」と染め抜いた手拭を届けて下さった。「頑張れ!!新来え学長!!よき後輩がいるではないか!!」といわぬばかりに。

今年2月、私の退職記念祝賀会が東京高輪プリンスホテルで開かれた。その折、皆さんにお礼に献呈した拙い私の論文集「中国古典の民俗と文学」、並に私の主宰した漢文学会の会報特輯号を別便で母校の図書館にお届け申します。末筆ながら、遥かに母校北野高校のいよいよのご隆昌を祈り上げます。(61・8・15)

卒業年度別人員並に年会費納入状況一覧表

(S61-4-30現在)

年度別	人 員			年 会 費			年度別	人 員			年 会 費			年度別	人 員			年 会 費		
	卒業	現在	不明	S58	S59	S60		卒業	現在	不明	S58	S59	S60		卒業	現在	不明	S58	S59	S60
M44(24)	78	8			1	1	S13(51)	278	142	1	45	44	55	S36(73)	314	224	84	38	37	37
M45(25)	75	4			2	1	S14(52)	286	177	1	48	60	59	男女	135	111	21	17	16	14
T 2 (26)	98	8		2	3	4	S15(53)	281	207	1	53	64	67	男女	306	246	58	29	28	37
T 3 (27)	66	7		2	1	0	S16(54)	278	173	1	59	57	54	男女	137	113	23	13	12	12
T 4 (28)	102	14	1	4	1	3	S17(55)	276	178	4	50	61	56	男女	270	157	111	19	23	16
T 5 (29)	117	14		4	5	3	S18(56)	278	196	1	52	56	57	男女	171	100	68	11	13	16
T 6 (30)	86	14		3	2	2	S19(57)	302	238	1	52	65	64	男女	312	249	67	14	11	27
T 7 (31)	103	21		5	3	6	S20(58)	301	215	3	56	55	59	男女	144	120	22	7	8	15
T 8 (32)	116	21		4	2	4	S20(59)	274	201	4	49	57	57	男女	337	204	125	24	21	23
T 9 (33)	167	37	1	10	7	8	S22(60)	301	236	4	50	57	58	男女	171	108	62	8	12	14
T10(34)	141	28		9	6	7	S23(61)	321	235	3	42	49	60	男女	381	288	87	35	27	38
T11(35)	144	31		8	4	9	S24(62)	326	270	7	50	55	53	男女	169	123	42	14	14	15
T12(36)	127	34		7	9	13	S25(63)	283	223	49	35	34	39	男女	354	211	142	21	20	18
T13(37)	142	48		19	16	22	注	111	96	9	20	18	14	男女	190	107	78	10	13	14
T14(38)	145	50	2	19	19	19	注	102	71	25	3	6	3	男女	349	227	117	17	24	27
T15(39)	201	75	1	26	25	25	S27(64)	293	236	45	55	63	59	男女	203	136	67	5	7	8
S 2 (40)	193	83	1	34	31	40	注	134	115	15	26	24	22	男女	337	246	88	14	17	21
S 3 (41)	276	78		44	42	52	注	115	24	86	2	3	1	男女	151	104	43	8	11	11
S 4 (42)	232	94	1	46	49	43	S28(65)	245	200	37	23	31	46	男女	311	202	106	16	24	22
S 5 (43)	253	113		45	37	40	注	175	147	23	20	27	28	男女	182	118	63	9	8	7
S 6 (44)	263	111	2	44	47	43	S29(66)	275	222	47	32	43	41	男女	351	247	101	22	23	25
S 7 (45)	270	125	1	55	63	67	注	183	156	21	30	29	24	男女	137	90	44	10	4	7
S 8 (46)	275	135	1	47	46	48	S30(67)	296	206	86	27	35	32	男女	298	203	92	17	26	25
S 9 (47)	248	120		53	55	55	注	168	122	43	26	28	23	男女	175	122	50	7	7	10
S10(48)	251	126	1	56	56	63	S31(68)	310	231	69	48	43	51	男女	293	214	72	17	19	29
S11(49)	263	155	1	49	60	57	注	132	101	22	25	20	27	男女	184	147	33	12	14	13
S12(50)	277	162	1	56	52	57	S32(69)	317	239	74	47	37	42	男女	270	221	48	29	36	35
小 計	4709	1716	14	651	644	692	注	131	110	19	24	23	17	男女	182	147	35	18	12	11
							S33(70)	306	291	9	35	36	47	男女	204	178	26	9	15	12
							注	149	144	1	17	16	21	男女	266	242	23	28	25	28
							S34(71)	322	283	31	35	37	42	男女	182	160	20	18	22	20
							注	124	114	4	18	12	15	男女	240	216	24	4	27	21
							S35(72)	305	251	42	40	34	54	男女	209	194	15	5	9	11
							注	155	138	16	21	20	23	男女	254	243	11	2	0	13
							小 計	8133	6188	804	1213	1299	1370	小 計	9530	7126	2315	634	702	764

(注) 大は大手前診療舎

93回～96回は略

六稜同窓会だより

六 稜 昭 三 会

本年は昭三会員の多くの方が喜寿の年に当たりますので総会の諸行事を次の如く去る5月4日に開催しました。旧師土屋憲三先生をお迎えし、同期の会員上野淳一君(同窓会会長)、黒田了一君(前大阪府知事)を始め、30名が参加して盛会裡に終了しました。

第一部＝昨年4月20日母校跡に建立されました記念碑の前に集合、記念の写真を撮る。

第二部＝大阪市東区坐摩神社本殿にて長寿祈願祭を行う。

第三部＝大阪市西区大阪厚生年金会館にて総会を開催する。同会館館長箱木敏夫氏は昭三会員故奥村正義君の未亡人正子夫人の実弟で、当日は休日にも拘らず本会のため出社され、ご鄭重なるご挨拶の上に過分のビールまでご寄贈を頂きました。又総会の席上、会員の野木一雄大手前病院顧問(前大手前病院院長)より「老人病に対する心掛け」についての貴重な卓話を拝聴しました。

私達昭三会は年に一度及至二度の会合を開く事になって居りますが、関東地区並にその他の地方に在住する諸兄には、遠路わざわざ当地に出席願う事は大変なので、心ならずも京阪神地区在住の会員達の会合になって仕舞うのを心苦しく思っています。一方東京方面では佐野一雄君が中心となって春秋二回会合を開いて呉れています。併し何れの場合でも年令に抗し切れず病氣或は病歿により参加者が減ってくる事は心淋しい感じがします。お互に健康でありますように。(昭和61・6・1 末吉記)

六 稜 四 五 会

昭和7年卒、現在の十三校舎第1回の卒業生である四五会員は昭和61年6月22日(日)・23日(月)京都嵐山の「花のいえ」で同窓会を開いた。案内状発送61名、内参加者は恩師水鳥先生始め24名、3名の死亡が確認されたのは淋しかった。(黙禱する)1名は所在不明、5名は返事なし。平安を祈る。欠席通知は29名であった。

22日は梅雨晴れの夕方5時、三三五五、「花のいえ」に集合、久闊を叙し、一夕の歡をつくす。宴席は部屋の使用時間をすぎても、話はずみ、校歌を合唱してやっとお聞きになる。それからここかしこの部屋で再度話の花が咲く。

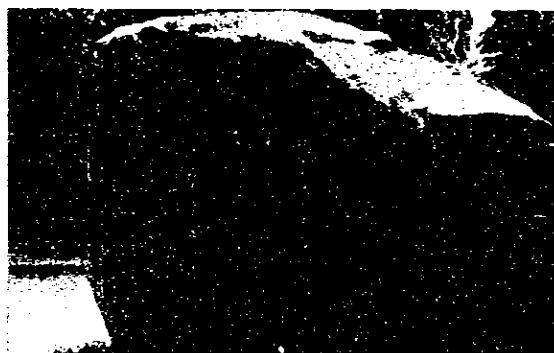
23日は生憎の小雨、梅雨の候なればやむなしと庭の緑に心を休める。朝9時半のチェックアウト時間まで、ロビーで元氣な声がとびかう。宿所の玄關で来年の再会を約し、バスで京都市内に向うもの、雨中の嵐山を散歩す

森本薫文学碑建立さる

昭和54年度から始められた大阪市教育委員会の大阪ゆかりの文学者の顕彰事業の文学碑建立の第十二基目として今般森本薫が選定され、昭和61年5月19日その生地ゆかりの大阪市大淀区中津公園の一角に文学碑が建てられ除幕式が行われました。建立に際し「森本薫文学碑建立によせて」を発刊しました。

我々旧制北野中学校に於て森本薫と共に昭和5年に同校を卒業した六稜昭五会会員といたしましては非常な喜びを感じております。然し不運にも若くして此の世を去った偉大な森本薫の文学的事跡は一部の文学愛好者或いは関係者以外にはあまり知られていないのが実状です。

なお頼公園に梶井基次郎(第32回大正8年卒)の文学碑があります。(六稜昭五会)



るもの等に別れる。水鳥先生始め有志5・6名、雨の渡月橋を渡り、阪急嵐山駅に向う。橋上より見る嵐山周辺の山々は水蒸気に煙り静寂、昨日の日曜日の歡樂のあとの塵を雨中清掃する二三の人影がわびしさと静けさを増す。一同松尾大社に参詣、今後共幾久敷くお酒とのご縁が続きますようにと氣のいい祈念を雨足の音を聞きながら神様に申しのべる。天氣がよければ附近を語りながら散策も出来るであろうとの恨を残しつつ、桂駅で解散。

尚、明62年は我々にとって北野中学入学60周年になるので、東京との合同で、中間地帯に集り、盛大な同窓会を開こうではないかとの話が熟した。

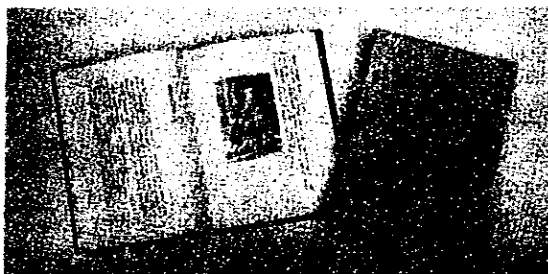
参加者、恩師水鳥先生・芦村通高・有山正次・磯尾江一・關高寛・川崎祐宏・高野栄蔵・田中静夫・富田成久・中野頼・中村治・西田誠行・平井透・古江正市・松井一雄・松葉登起男・松井正吉・森島重勝・森山康夫・守口長英・山崎直計・山田元四郎。幹事、小野善三郎・佐藤英夫

以上

第59回同窓生

「北野中学の憶い出」に感動して

中江 要介 (53回)



(一)

第59回同窓生諸君、実に天晴れノというほかはない。「北野中学の憶い出」は天下一品だ。どこへどう持ち運っていいのかわからないが、とにかく日本中の日本人のみんなに読んで貰いたいような本だ。

本当にいい仕事をされた。心の底の底から敬意を表したい。

(二)

このように感動するのも、君達と僕とが比較的近い時代に北中生活を過したためかもしれない。君達が入学されたのは、僕の卒業した翌年のことである。だから、あの校舎・校庭に同時に存在したことはない計算になるが、教職員連中は殆んど同じである。

しかし、一番大きな違いは、校長だ。僕等は安達校長からオットセイへの時代、君達はオットセイからギョロの時代。僕等がギョロ校長を迎えなかったのは幸であったようだが、半ば残念であったようでもある。反体制のマトをしぼれなかった。といういみで……

(三)

「北野中学の憶い出」一開巻初端(しょっぱな)に、又銃で支えられた校旗。感無量、もう何も言えなくなるし、言いたくない。ただ、黙祷あるのみ。

その次の教職員の写真。いる、いる、ナキマス、ガマ、チャカ、カリヤン、ネコ、シシ、カワブタらが最前列に、そして後列には、クラゲ、ネエチャン、カイブツ、ウマなど、更にかこいの中に、マントク、チントクなどなど……いや、もう、何故か笑いがこみ上げてくるのは、再会のよろこびか？

(四)

次いで1年各クラスの写真。1組の担任のブイチは、僕等が5年生で卒業直前、僕にとっては忘れ難い人生の指針を与えて下さった先生。曰く、「人生こうと決めたらコツコツ、コツコツと努力すること。」

4年生の時のクラス写真。これは一体どうだ。この名札、すごい。4組担任の「平田泰雄」には参った。こんな若い、チョロそうな男を、われわれはネコ、ネコと鼠のように忌み嫌っていたとは。当時の僕等の教科書の中

の一課、「わが輩は猫である」の一文を、堂々と(?)読んで、赤い顔をして、その顔を両手でこすっていたあのネコの姿がウソのようで……

(五)

それにしても、同窓生諸君一人一人の寄稿文の一つ一つの素晴らしさ、はどうだ。さすが北野の後輩だ。いずれも甲乙つけ難く、実に読ませるし、興味津々。

ギョロ校長を中心に据えて、これをアンティテーゼとして、その廻りに咲き乱れる花、花、花——まさに百花撩乱である。見事である。

(六)

ここで矢張り、先生方のご寄稿文のことも一言。金森先生を除けばすべて僕等の恩師でもあり、懐しさで一杯。それにしても、実によく生徒のレベルで筆を執られたものと感銘深い。もはや先生ではなく、友人である、といいたい。

一寸申訳ない気がしたのは、僕等が英会話の授業の度に、ミスパイノ ユー・アー・スパイノ、とからかって真赤な顔で怒らせたゴードー先生が、あのあとニュージーランドにのがれ、そこで亡くなったことを水島先生の一文で知ったこと、何やら複雑な気持である。

(七)

この「北野中学の憶い出」で一番僕の気に入ったことは、

第一に、巻頭の「はじめに」の中にあるように、「……大向うをうならせるため」のものではない、という編集方針。それが結果的に大向うをうならせてしまったのだが……

第二に、一人一人の同窓生の寄稿文に、執筆者の経歴や肩書を一切つけず、ただ姓名のみで整理されたこと。その通りノ われわれは皆、裸であり、平等に自由人のだから。

(八)

とにかく申し分のない名記録を発刊されたことに、改めて、心の底の底から「おめでとう」と申し上げたい。六校同窓会の宝である。

諸君の一層のご発展を祈りつゝ。

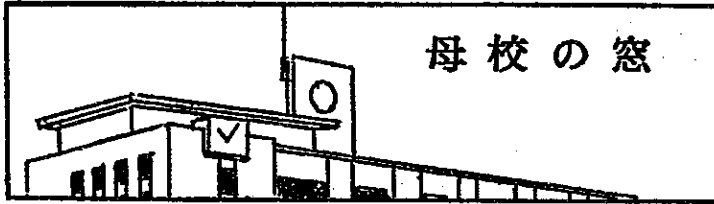
(1986・6・15 於 北京)

東京六校77会第1回総会開催

(昭和40年卒)

北野卒業後初めての総会を3月29日(土)銀座ライオンにて開催。出席者は29名(うち女性6名)、10名程度で数年前より年1〜2回集まっていたが、今年初めて、総会とした。当日は名簿と卒業写真と本人とを見くらべながら当時を思い出し21年間の月日の流れ、お互の変りようなどを話し合い、時間のたつのも忘れる楽しい1日でした。総会では会長に島敏明君、事務局に前川清行を選び、次回10月第3土曜日の再会を約束し解散した。

(記 前川)



母校の窓

職員異動

村井 正三 (S38~61) 国語
井田 博之 (S46~61) 理科
片田 清 (S46~61) 英語
松下 勇 (S51~61) 保健
大橋 正美 (S59~61) 主査
植田 好男 (S58~61) 主事

の先生方がこの春ご退職・ご転勤されました。村井先生は清風南海学園へ移られ、井田・片田両先生はご退職になり、松下先生は桜塚高校定時制に移られました。また大橋主査はご退職になり、植田主事は三島高校へ移られました。なお井田先生は講師として引き続きお世話になります。今後のご活躍をお祈り申し上げます。また、後任として次の先生方を本校にお迎えしました。

馬場将夫 (豊島高校) 英語
上田重隆 (島本高校) 保健体育
近森 聡 (新任) 国語
濱田好計 (豊島高校) 主査
三好章久 (成城工業高校) 主事

お祝い

藤井通雄元校長先生、北原高男先生は、今春、勲四等瑞宝章の叙勲を受けられました。おめでとうございます。

御不幸

高岡ハルエ先生(S23~S36家庭科)が昨年12月末に、植田孝治元事務長(S35~S40)が本年6月におなくなりになりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

ご寄付をいただきました

58回(S20年卒)から卒業40周年記念に、ソニー8mmビデオCCD-V8(チューナー・モニターテレビ付、50万円相当)を、73回(S36年卒)から卒業25周年記念に図書(10万円相当)をご寄付いただきました。紙上よりお礼申し上げます。

第一回文化活動振興賞決定

文化活動の顕著であった部・同好会または個人に贈られる文化活動振興賞は八木剛・篠塚勉の両君に決定。八木君は生物研究部に所属し研究発表が顕著であり、篠塚君は作品「風」(アニメーション)が評価された。

お知らせ

〇学級増によりプレハブ校舎10教室分(特別教室等を含む)を現在正門の西側に建築中。テニスコートを準全天候型に改修工事中。秋完成予定。

クラブだより

61. 8. 1 現在

【オーケストラ】

文化祭では文響曲「田園」を発表。夏合宿は7月末能勢玉泉寺にて4泊5日。ビゼーの一番を特訓。

【卓球】

公式戦 大阪高校総体 (男) 北野 3-2 少路、3-2 渋谷、1-3 池田、3-2 園芸、予戦3位。(女) 3-0 箕面、2-3 桜塚、3-0 附属池田、予戦3位。(中央大会) (男) 0-3 高津。(女) 3-2 成蹊、2-3 春日丘。選抜大会 (女) 3-2 生野、3-2 長野、0-3 淀之木、1-3 大谷、3-1 日新。(府下7位)・新チーム大会 (男) 1-3 泉南。(女) 3-0 帝国、3-0 豊島、2-3 八尾。インターハイ予選 (男) 3-0 少路、3-1 池田北、2-3 豊中。(女) 0-3 池田。定期戦 北野 5-4 市岡 (秋) 8-7 市岡(春)、8-2 天王寺。六稜杯 (秋) 本田啓司、植原千世 (春) 本田啓司、小原理恵。

【男子バスケット】

公式戦 大阪高校総体 北野71-41 追手門、108-52池田北、39-77浪商。大阪高校新入大会 52-61吹田。大阪高校選手権大会 90-41長尾、82-45鳥飼、70-34東淀川、44-66 守口北。定期戦 四校(天王寺、神戸、灘) 63-57神戸、97-49灘。春期遠征 北野-膳所、51-47、40-49、54-59、48-45東大津。83-36天王寺。

【剣道部】

公式戦 大阪高校総体 (男) 不戦勝 北野 3-1 岸和田、5-0 藤井寺、2-1 茨木、0-5 近大附属。(女) 5-0 夕陽丘、4-0 牧野、0-3 芥川。インターハイ府予選、(団体・女) 1-3 三島。第7位。近畿大会 女子団体出場。定期戦 対天王寺勝。対大手前勝。北野、豊中、池田三校戦 男女団体共に準優勝。個人 白石(男)、黒川(女)優勝。

【柔道】

公式戦 大阪高校総体(団体5人戦) 対久米田負。学年別大会(2年3人戦) A対高槻南 引分、対金光第一勝、対茨木東勝、対大阪負。B対東淀川負。(一年) A対豊島、代表戦負。B対東淀工負。全国大会府予選(団体) 対茨木東勝、対東淀川負。定期戦 京大招待試合(勝抜) 対高槻、引分。対白陵負。神戸戦(点とり) 負、(勝抜) 勝。十二校戦 対茨工、白陵、負。(決勝戦) 対芦屋勝。天王寺戦(点とり) 負、(勝抜) 負。

【女子バレーボール】

公式戦 大阪高校総体 北野 2-1 北淀、2-0 福井、0-2 桜塚。大阪府立高大会 2-1 豊島、0-2 箕面。秋季部別大会 2-0 美原、2-1 枚方、0-2 泉陽。春の高校バレー 0-2 西商。春季部別大会 2-0 山本、2-0 金蘭千里、0-2 箕面東。インターハイ予選 2-0 藤井寺、2-0 桜塚、2-0 鶴見商業、0-2 桜宮。定期戦 北野 2-0 天王寺。

【ソフトボール】

公式戦 秋季部別 北野7-0少路
(5回コールド)、10-0富田林
(3回コールド)、4-5淀之水。
高校総体府予選 3-6泉陽。
定期戦 夏季研修リーグ(Bリーグ)
北野5-4泉北、0-6春日丘、
研修リーグ入れ替え戦 1-6岸和
田産業。春季研修リーグ (B) 5
-1狭山、3-1市岡商業、8-7
八尾東、5-2泉陽。Bリーグ優勝。

【陸上競技】

公式戦 近畿高校総体 3000m10位
門田佳子。大阪インターハイ 3000m
8位門田佳子。大阪高校駅伝予選会
10位尾高、上田、生田、福重、楠本、
池本、松本。豊能駅伝 優勝 福重、
上田、松本、楠本、池本、尾高。

【ラグビー】

公式戦 全国大会府予選 北野20-
6上宮、38-4枚方西、11-0枚方、
32-0伯太、11-15啓光。近畿大会
府予選 不戦勝、39-0商大付、43
-0東住吉工、8-6大東、7-18
大東。府春季大会 29-0豊中、8
-4住吉、28-4唐津、0-6阪南。
定期戦 0-4洛北、9-24天王寺。

【サッカー】

公式戦 全国大会府予選 北野0-
0浪商(PK勝)、0-0山田(PK
勝)、0-1茨木東。大阪冬季大会
4-0茨木工、0-0高槻北(PK
負)。全国高校総体府予選 2-2
茨木工(PK勝)、1-1茨田(PK
勝)、2-0刀根山、1-0貝塚南、
0-3三島。
定期戦 0-0膳所、1-0天王寺。

【水泳】

公式戦 大阪高校対抗 女200m背
田子島屋9位。府立対抗 男400m継
内田・油野・阪本・米津、6位。
内田、100m平2位、200m個×3位。
女400m混 田子島屋・板橋・岸田・
岩田3位。100m背 田子島屋 2位。
100m平板橋7位。新入戦 男200m継
内田・油野・野村・吉住9位。100m
平内田2位。女100m平板橋9位。
中央大会 田子島屋 女100m背6位、
女200m背7位。400m継田子島屋・
板橋・佐竹・河本8位、400m混同メ
ンバー同順、6位。

【文芸】

部誌「幻」年四回発行、読書会年四回
実施、文化祭には「北野文学」及び
目録(宮沢賢治の個人研究)を発行。

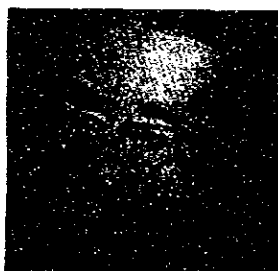
大学合格者一覧表

(61. 4. 23 現在)

国	立	男	女	計	九	州	大	2	2	武蔵野美術大	1	1	合	計	36	36	36	東京金沢工大	1	1	1			
北海道大	5	2	7	長崎大	2	2	明治大	1	1	1	1	1	短大	男	女	計	5	5	5	山口立校	2	1	2	
秋田大	1	1	1	熊本大	1	1	立教大	1	1	1	1	1	京都医大短	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	1	1	
東北大	1	1	1	宮崎医科大	1	1	早稲田大	35	8	43	43	43	大阪大医大短	5	5	5	5	5	5	山口立校	2	9	11	
筑波大	2	2	2	合	計	28	84	332	名城大	1	1	1	神戸大医大短	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
埼玉大	1	1	1	公立	男	女	計	大	谷	大	3	3	3	3	3	3	3	3	3	山口立校	2	9	11	
東京農工大	2	2	2	高峰経済大	1	1	京都外国大	4	4	4	4	4	大蔵省立看護大	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
東京工業大	1	1	1	都留文科大	2	2	京都産業大	1	1	1	1	1	京都女子大短大	17	17	17	17	17	17	山口立校	2	9	11	
東京大	13	1	14	金沢美工大	1	1	京都女子大	18	16	16	16	16	同志社女短大	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
お茶の水女大	1	1	1	静岡薬大	1	1	京都薬科大	3	13	16	16	16	専攻女子短大	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
一橋大	2	2	2	岐阜薬科大	2	1	3	同志社大	54	28	82	82	平安女学院短	2	2	2	2	2	2	山口立校	2	9	11	
電気通信大	1	1	1	京都府立医大	2	2	2	同志社女子大	12	12	12	12	大阪女学院短	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
横浜国立大	2	2	2	大阪市立大	8	8	16	立命館大	13	9	22	22	大阪音楽大短	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
金沢大	2	2	2	大阪府立大	12	7	19	龍谷大	1	2	3	3	関西外国短大	3	3	3	3	3	3	山口立校	2	9	11	
福井医科大	1	1	1	大阪女子大	2	2	2	仏教大	1	1	1	1	金剛短大	5	5	5	5	5	5	山口立校	2	9	11	
静岡医科大	3	3	3	神戸商科大	2	2	2	大阪医大	2	2	2	2	帝塚山学院短	4	4	4	4	4	4	山口立校	2	9	11	
静岡大	2	2	2	経路工業大	1	1	1	大阪工業大	2	1	3	3	新井田女子短	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
浜松医科大	1	1	1	奈良県立医大	3	3	3	大阪農科大	1	1	1	1	プール学院短	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
名古屋大	2	2	2	和歌山県医大	1	1	1	大阪電通大	1	1	1	1	帝塚山短大	3	3	3	3	3	3	山口立校	2	9	11	
滋賀大	1	1	1	下関市立大	1	1	1	大阪薬科大	2	7	9	9	早稲田女子短大	2	2	2	2	2	2	山口立校	2	9	11	
滋賀医科大	1	1	1	九州歯科大	2	2	2	追手門学院大	3	3	3	3	神戸看護短大	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
京都大	63	11	74	合	計	37	20	57	関西医大	35	29	64	神戸女子短大	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
京都教育大	1	1	1	私立	男	女	計	関西西科大	3	1	4	4	外川学院短大	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
京都工機大	2	1	3	青山学院大	1	1	1	関西外国語大	7	7	7	7	松本女子学院短大	2	2	2	2	2	2	山口立校	2	9	11	
大阪大	60	18	78	麻布大	1	1	1	近畿大	3	3	3	3	關西学院女子短大	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
大阪教育大	4	14	18	慶応義塾大	39	5	44	摂南大	2	2	2	2	大阪川女子短	2	2	2	2	2	2	山口立校	2	9	11	
大阪外国語大	9	9	9	工学院大	1	1	1	相愛大	2	2	2	2	合	計	60	60	60	60	60	60	山口立校	2	9	11
神戸大	28	16	44	国際基督教大	1	1	1	帝國女子大	1	1	1	1	早大	男	女	計	5	5	5	山口立校	2	9	11	
(2部内設)	(2)	(2)	(2)	上智大	1	1	1	2	帝塚山学院大	2	2	2	2	防衛医科大学	5	5	5	5	5	5	山口立校	2	9	11
神戸商船大	1	1	1	多摩美術大	1	1	1	1	帝塚山大	4	4	4	4	防衛医科大	2	2	2	2	2	2	山口立校	2	9	11
奈良教育大	1	1	1	中央大	5	5	5	5	英知大	1	1	1	1	航空保安大	2	2	2	2	2	2	山口立校	2	9	11
奈良女子大	4	4	4	東京女子大	1	1	1	1	関西学院大	20	45	65	海上保安大	1	1	1	1	1	1	山口立校	2	9	11	
鳥取大	1	1	1	東京女子医大	1	1	1	1	甲南大	5	12	17	航空大	2	2	2	2	2	2	山口立校	2	9	11	
岡山大	1	1	1	2	東京造形大	1	1	1	1	甲南女子大	1	1	1	合	計	12	12	12	12	12	山口立校	2	9	11
広島大	3	3	3	3	東京農薬大	1	1	1	1	神戸学院大	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	山口立校	2	9	11
香川大	2	1	3	2	1	11	11	11	11	神戸女子大	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	山口立校	2	9	11
愛媛大	1	1	1	2	日本大	1	1	1	1	神戸女子看護大	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	山口立校	2	9	11
高知大	1	1	1	1	1	1	1	1	1	兵庫医科大	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	山口立校	2	9	11
高知医科大	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	山口立校	2	9	11

プロフィール 最高裁判事になった

林 藤之輔さん (54期)



生粋の浪花っ子だ。関西法曹界出身の最高裁判事2人が、今年相次いで去ってゼロになり「東高西低はよくない」と、就任を引き受けた。

裁判所の実務のやり方、裁判官の気質が、大阪と東京では微妙に違う、という。

「東京は硬くてむづかしい雰囲気。大阪はやわらかくてザックパラン。裁判官も簡単に弁護士に会う。東京は権力的な感じがする」。

海軍、大学と同窓だった伊藤栄樹・現検事総長に誘われた司法科試験に合格。検事志望だったが、弁護士修習で教えを受けた色川幸太郎弁護士が、スキヤキをごちそう

してくれながら「君は弁護士に向いている」。心を動かされ、色川事務所に入った。

弁護士の卵のころ、占領軍総司令部(GHQ)の軍事法廷に立った。証人の発言をとがめて逮捕した粗っぽい軍人裁判長の訴訟指揮に、「弁護権を守るには命を張る場合もある」と痛感した。

弁護士としては珍しく青年会議所に参加。「企業人から対等の立場でビシビシやられたのが良かった」。一流企業の顧問のかたわら、大阪駅前のヤミ市立ち退き紛争を約30年かけてまとめあげた。

ドイツ文化をこよなく愛す。西独や東欧などを11回も訪ねている。夏休みに、テーマを持って一人で旅立つ。ドナウ川の源流探訪。偉大な夫の陰で地味に生きたゲーテの妻の墓をたずね、墓石に刻まれたゲーテの愛情あふれる詩文に涙するロマンチストだ。

色川氏が、「まづ一生懸命に勉強を。そのうえで変説、改論は自由自在に」と勵ました。「国民にわかりやすい判決を書きたい。生の人間の悲しみ、苦悩を見てきた体験を大事にして。人の意見に盲従せず、私のオリジナリティーを出したい。異端者とされても、15人のうち1人ぐらいいいのではないですか」。

(昭和61年6月14日 朝日新聞朝刊より転載)

【男子バレーボール】

公式戦 大阪総体 対教育大池田勝、対茨木負。府立高大会 対桜塚負、対茨木西勝。秋季部別大会 対大阪学院、同志社香里、大成負。春の高校バレー予選 対大東勝、対大商大附属負。春季部別大会 対東百舌鳥負。対守口、箕面勝。インターハイ予選 対同志社香里負。定期戦 北野2-0天王寺。

【山 岳】

大阪春季登山大会 男4位、女2位。国体府予選少年男子 多田裕史5位。

【硬式庭球 男子】

公式戦 大阪高校総体 宮森、シングルス本戦出場。大阪ジュニア 佐々本、シングルス本戦出場。会津、佐々本ダブルス本戦出場。大阪春季大会 木村、シングルス本戦出場。定期戦 対市岡定期戦勝。

【男子ハンドボール】

公式戦 春季総合体育大会 北野21-13大阪学院、24-21池田北、11-32北陽、13-24豊中。定期戦 天王寺戦負。

【野 球】

公式戦 秋季大会 北野1-5府立工専。春季大会 不戦勝、8-1能勢(7回コールド)、2-9近大附(7回コールド)。大阪大会 5-11東海大仰星。定期戦 北野13-1大手前、4-15浪商、2-4天王寺、5-5市岡。

【書 道】

第1ブロック書道展に写経・漢字・近代詩文等6点出品。大阪芸術文化祭に2点出品

編 集 後 記

○ この会報は24ページが限度で、これをこすと郵送料がぐんとはね上がるのだそう。編集子が不粋なやりくり作業に精出すのはつまりこのため、今回も多くの会員の皆様に御迷惑をおかけすることになった。

○ なかでも、「北野戦後史」の最終章——クーデター渦中のパキスタンに潜入した本戸特派員が、寝酒用のスコッチを餌に監獄行き覚悟で(なぜならイスラム教国ではアルコールは厳禁)、現地の通信社から特ダネを仕入れ他紙に圧勝するくだりは、十三育ちの面目が躍如としていて、これを割愛するのは辛かった。

○ 59回生「北野中学の懐い出」に多数の有志から感想文の数々。遠来の中江大使のお便りを優先させて頂く。

○ 「校長排斥事件」の座談会は燎原の火のごとく延々4時間。ただし、本紙にはその半分程度しか掲載できず。

○ 戦時下の中学生の生活記録——豊中高女と生野中学に出版例あり。本校で歴史の発掘が遅れたのは、一つには幻滅の体験を生徒たちに強いた当時の責任者が最近まで生きておられたせいもある。しかし、六稜健児の仁義はともかく、汲めども尽きぬ古き泉の底から、こののち、どのような歌声が響いて来るのか——。

末筆になりましたが、同窓諸兄姉の益々の御活躍御健勝を祈りつつ。(J)